

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）

結果概要

川崎区版

目次

■調査の目的	- 1 -
■調査の設計	- 1 -
■概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 8 -
3. 近隣地域とその課題について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 36 -
8. 自由回答のまとめ	- 41 -
資料 アンケート調査票	- 53 -

調査の結果

■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第 6 期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の 20 歳以上の男女（外国人を含む）各区 900 人、全市合計 6,300 人

【調査時期】

令和元年 11 月 28 日～令和元年 12 月 20 日

【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

【調査内容】

- ・ 基本属性
- ・ 『川崎市地域福祉計画』について
- ・ 居住地域について
- ・ 地域活動やボランティア活動について
- ・ 保健・福祉に関することについて
- ・ 東日本大震災後の意識の変化について
- ・ 今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中の n とは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答は n を 100% として百分率で算出している。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100% を超える。

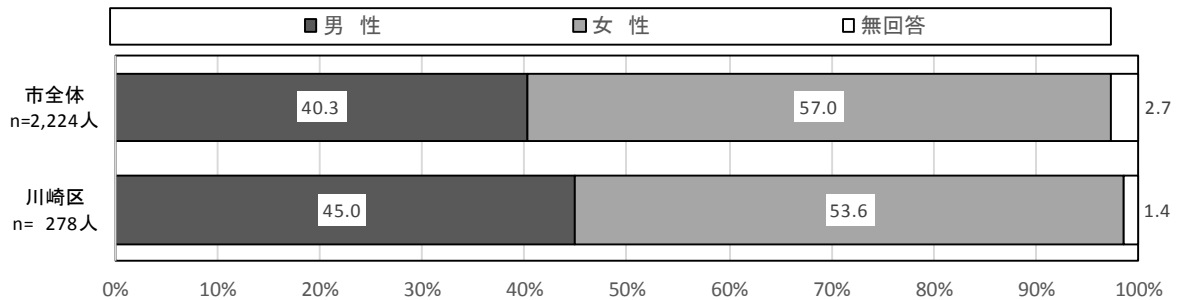
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数 (人)	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数 (人)	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
(参考) 第 4 回回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%

1. 回答者の基本属性

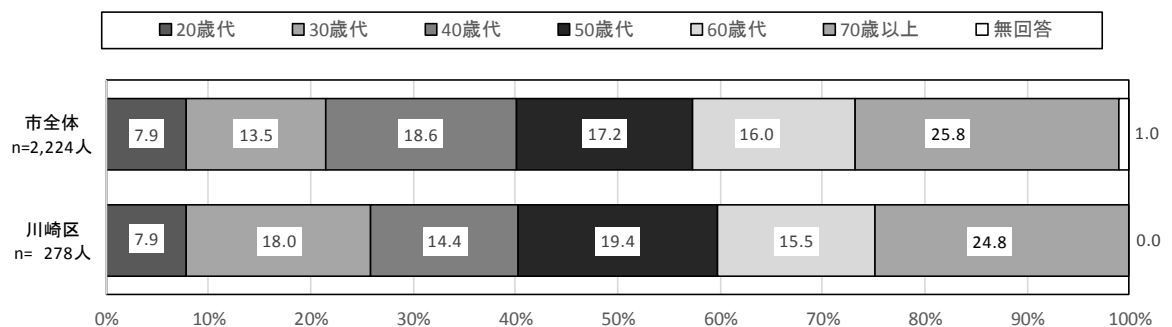
問1 性別を教えてください。(1つに○)

川崎区では、男性が45.0%、女性が53.6%となっている。



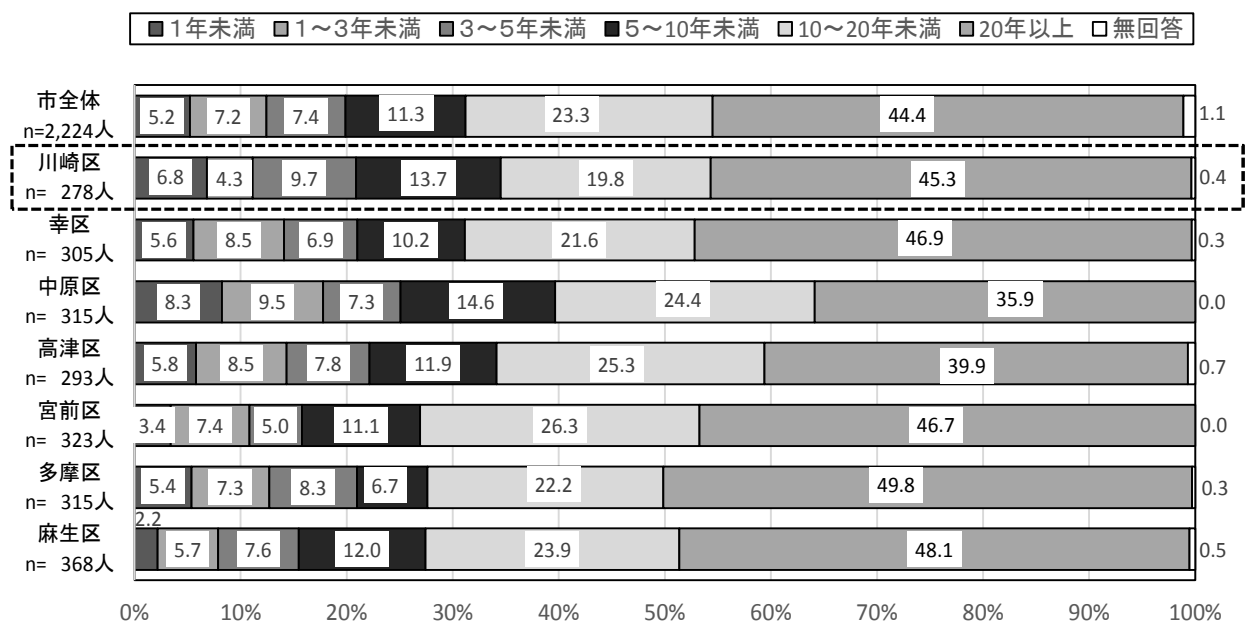
問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

川崎区では、70歳以上が24.8%で最も高く、次いで50歳代(19.4%)、30歳代(18.0%)となっている。



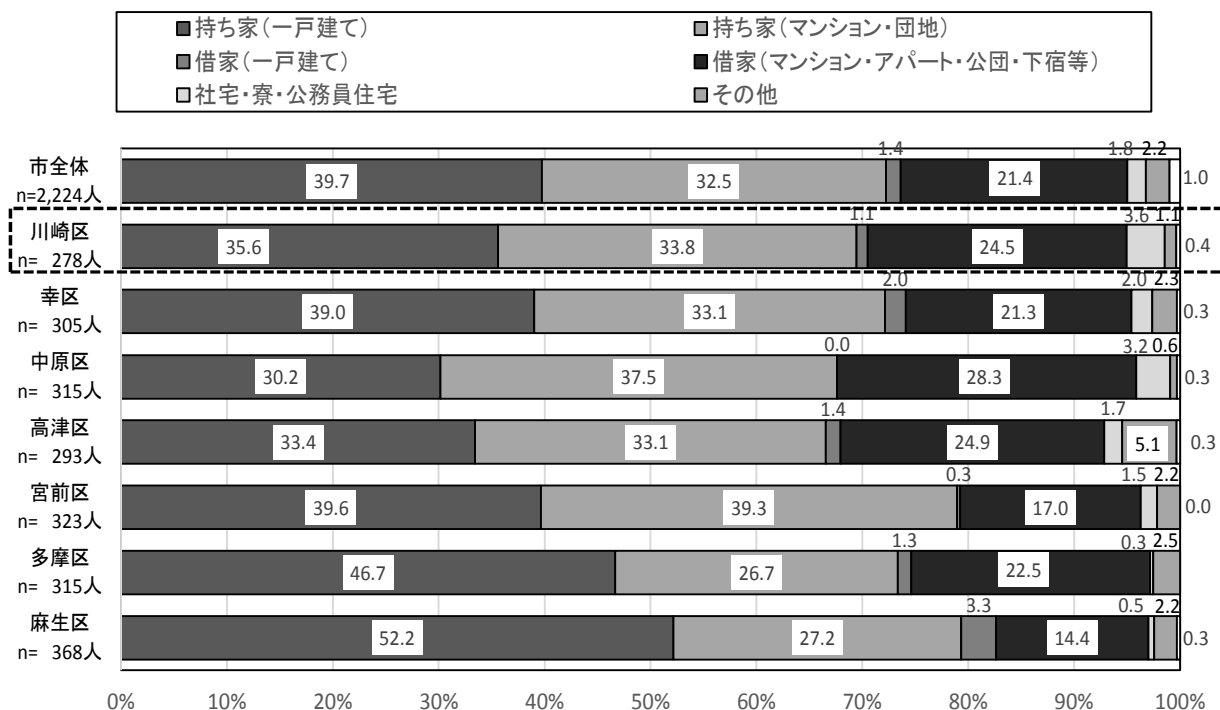
問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

川崎区では、20年以上が45.3%で最も高く、次いで10~20年未満(19.8%)、5~10年未満(13.7%)となっている。市内6区と比較すると、10年以上の割合(10~20年未満と20年以上を合わせた割合)が65.1%で、2番目に低くなっている。



問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに○)

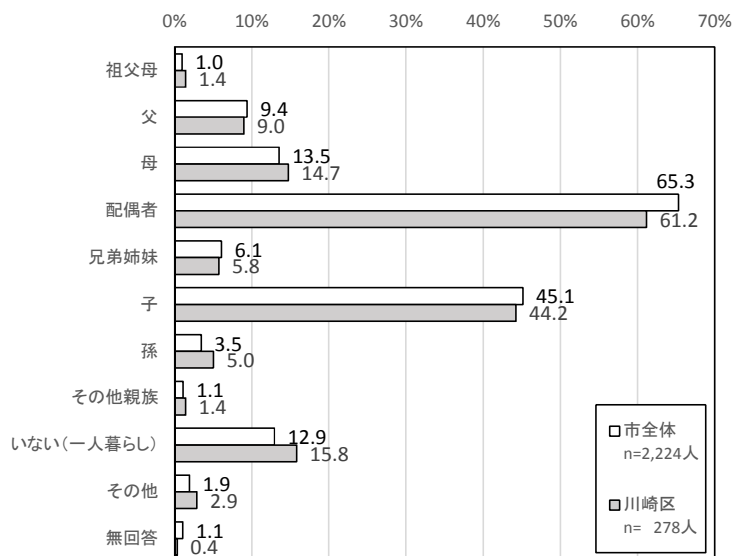
川崎区では、持ち家(一戸建て)の割合が35.6%で、市全体(39.7%)を4.1ポイント下回っている。市内6区と比較すると、持ち家(一戸建て)と持ち家(マンション・団地)を合わせた持ち家の割合が69.4%で3番目に低くなっている。



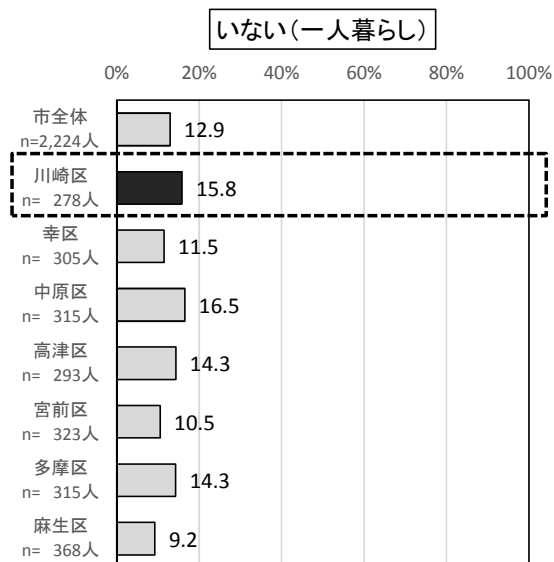
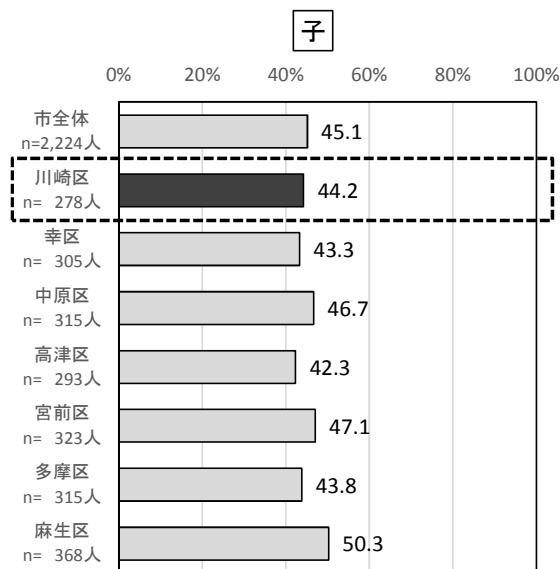
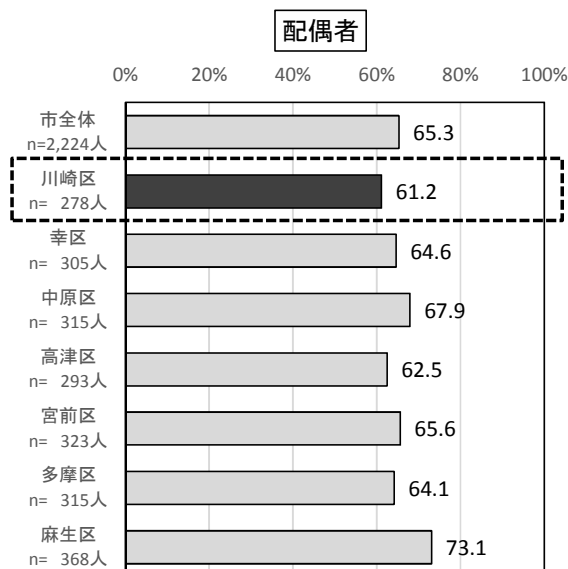
問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

川崎区では、「配偶者」が61.2%で市全体(65.3%)を下回っている。

市内6区と比較すると、「配偶者」は61.2%と最も低い。また、「子」は44.2%で4番目に高く、「いない(一人暮らし)」は15.8%で、2番目に高くなっている。

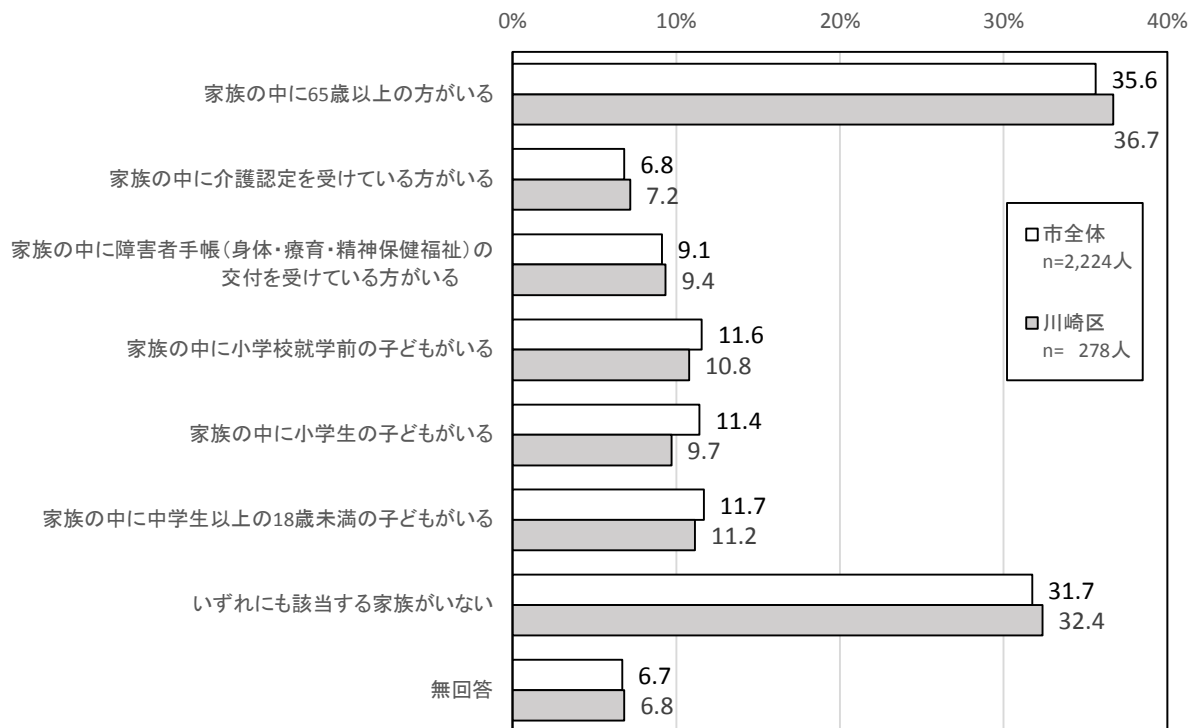


【参考】

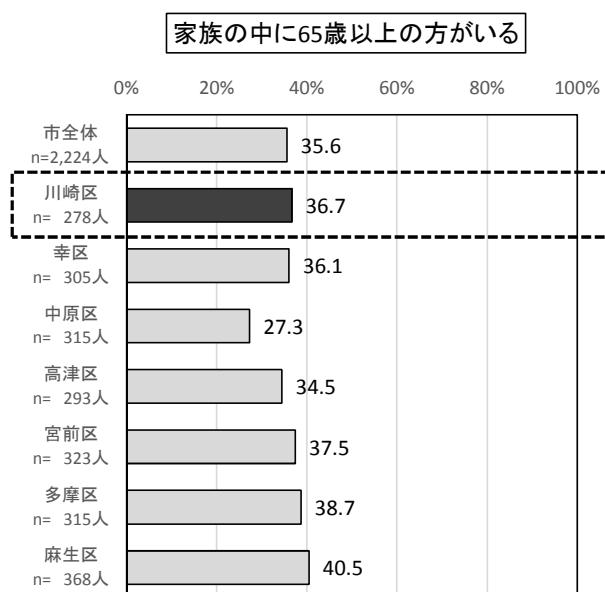


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

川崎市では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が36.7%で市全体（35.6%）を上回っている。市内6区と比較すると、「家族の中に65歳以上の方がいる」割合は4番目に高くなっている。



【参考】

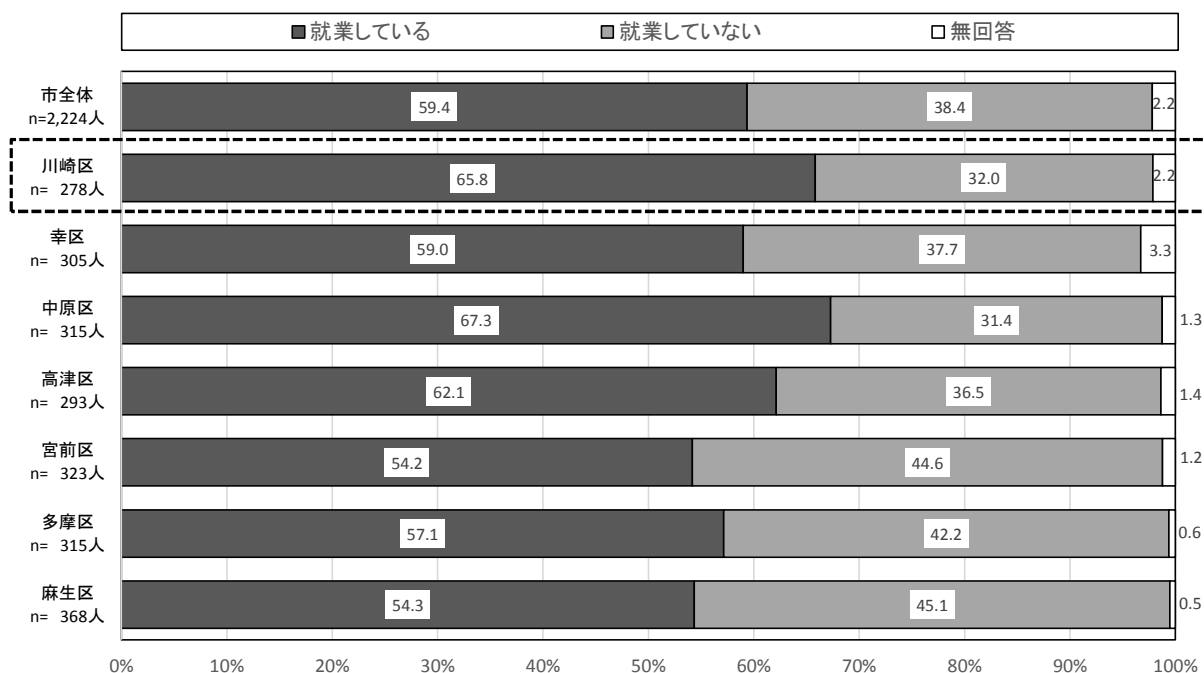


問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

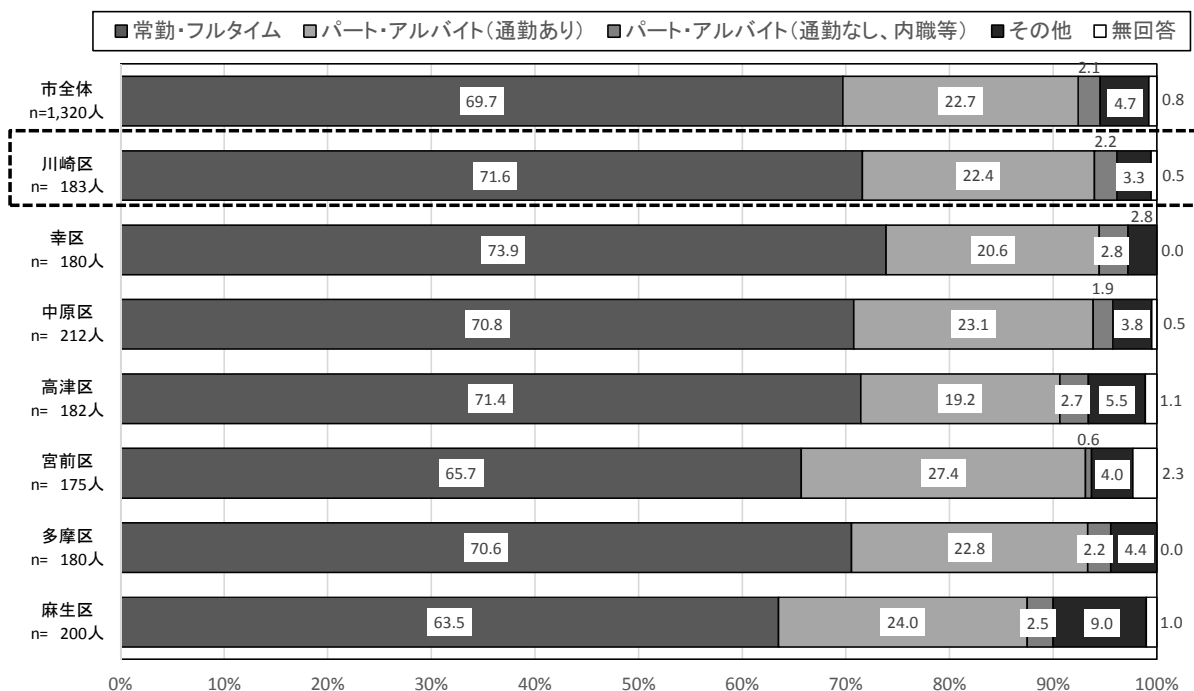
川崎区では、就業している割合が65.8%で市全体(59.4%)を上回っている。市内6区と比較すると、就業している割合は2番目に高くなっている。

就業形態については、常勤・フルタイムが71.6%で市全体(69.7%)を上回っている。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は2番目に高くなっている。

ア. 就業状況

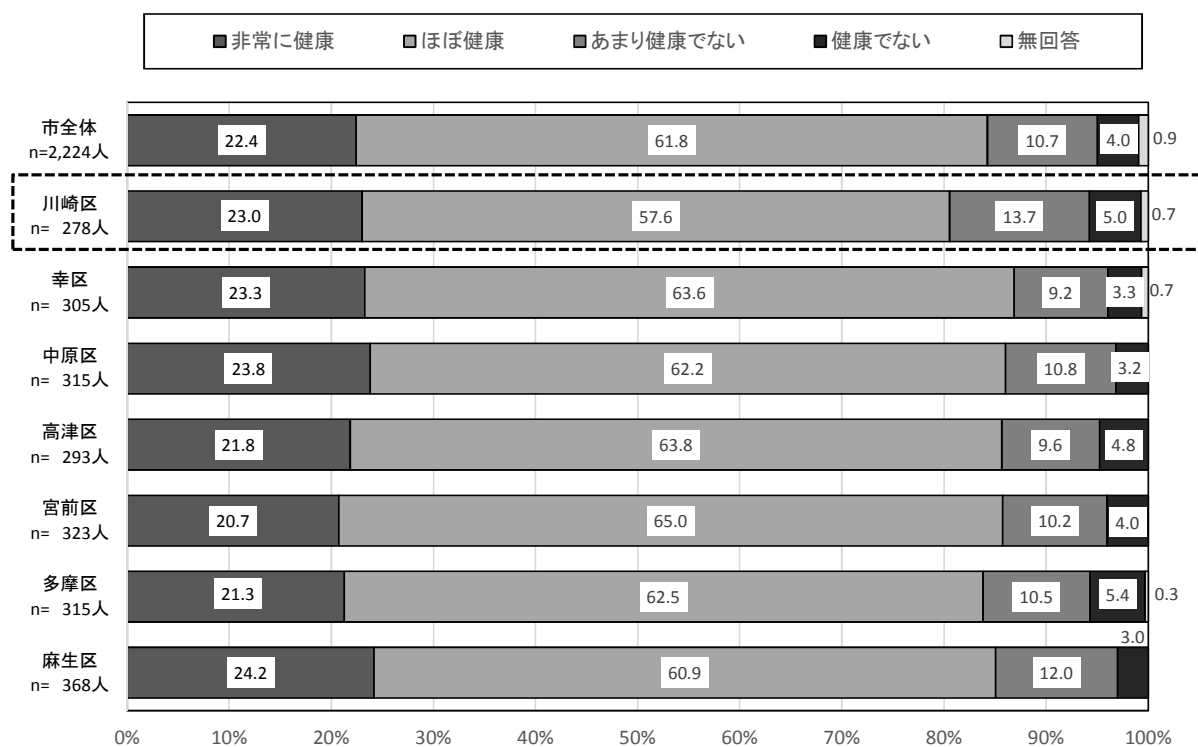


イ. 就業形態



問 10 あなたの健康状態は、いかがですか。（1つに○）

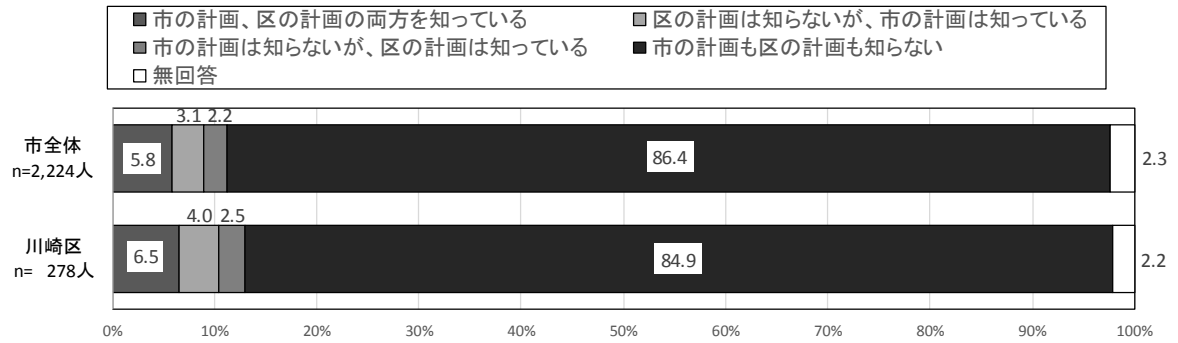
川崎区では、健康状態が「ほぼ健康」の方が57.6%で市全体（61.8%）を下回っている。市内6区と比較すると、「ほぼ健康」、「非常に健康」の割合を合わせると80.6%と最も低くなっている。



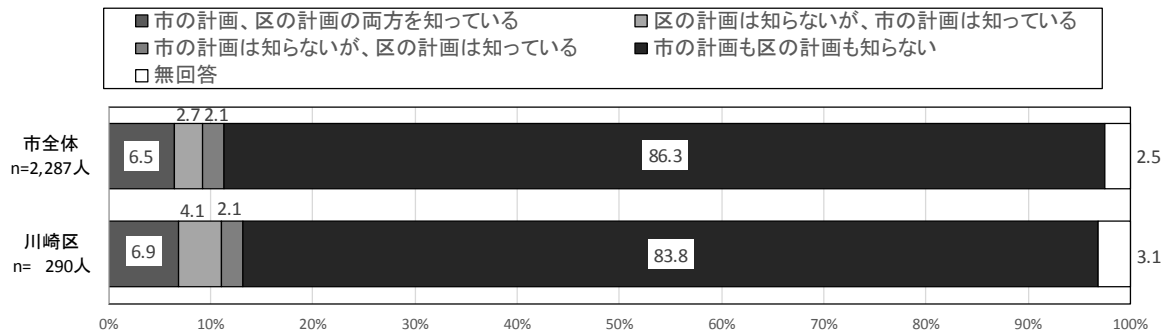
2. 『川崎市地域福祉計画』について

問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。（1つに○）

川崎区では、「市の計画も区の計画も知らない」割合が84.9%となっている。第4回調査結果と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」割合は1.1ポイント増加している。



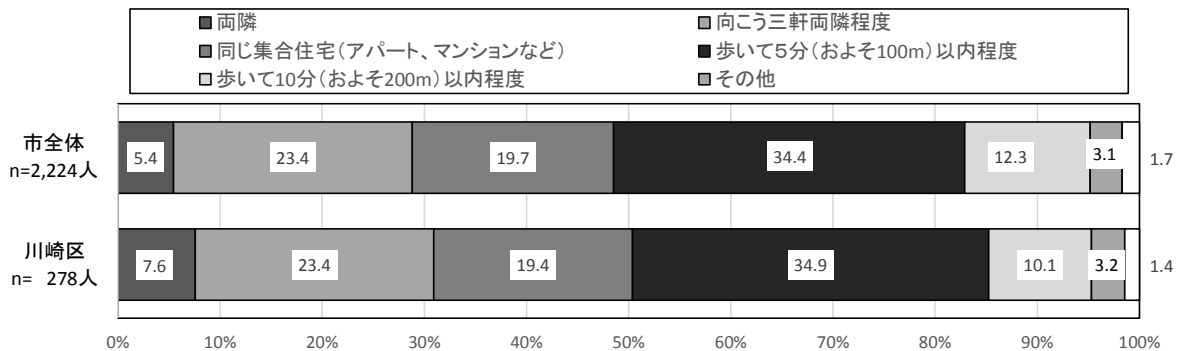
【参考】第4回調査結果



3. 近隣地域とその課題について

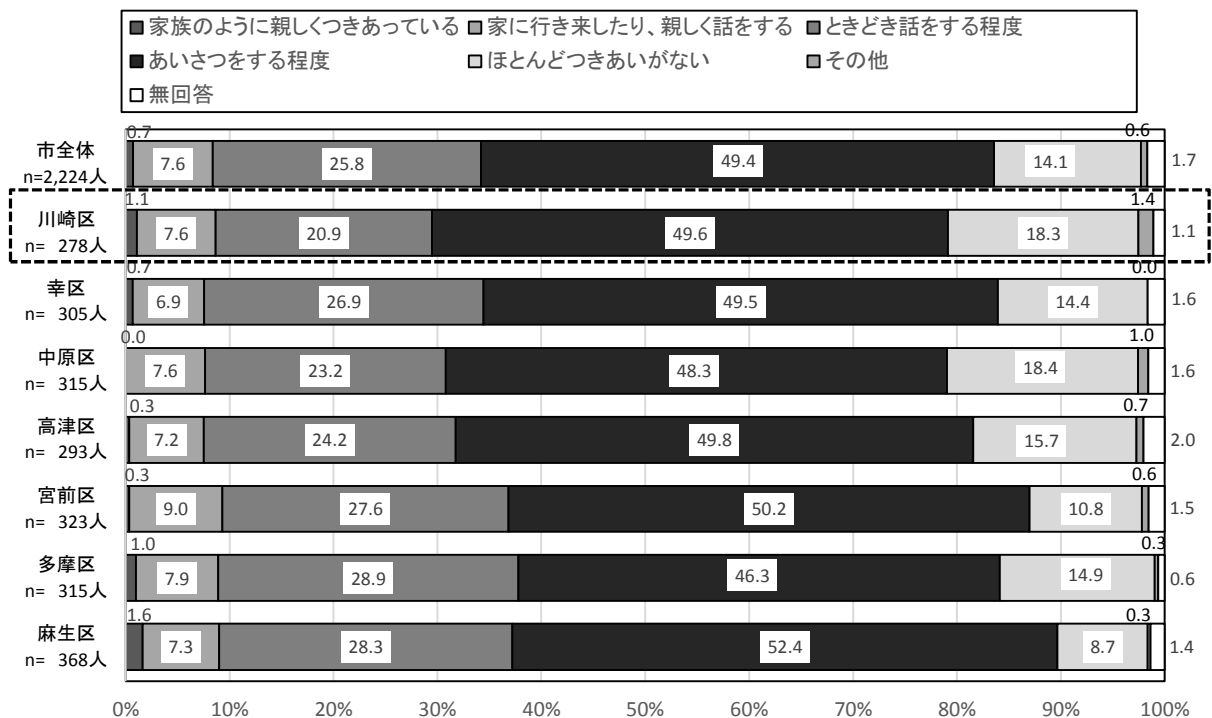
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

川崎区では、「向こう三軒両隣程度」の割合が23.4%で市全体（23.4%）と同じ値になっている。



問14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

川崎区では、「ときどき話をする程度」の割合が20.9%で市全体（25.8%）を下回っている。市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」、「家に行き来したり、親しく話をする」、「ときどき話をする程度」を合わせた割合は29.6%で、最も低くなっている。

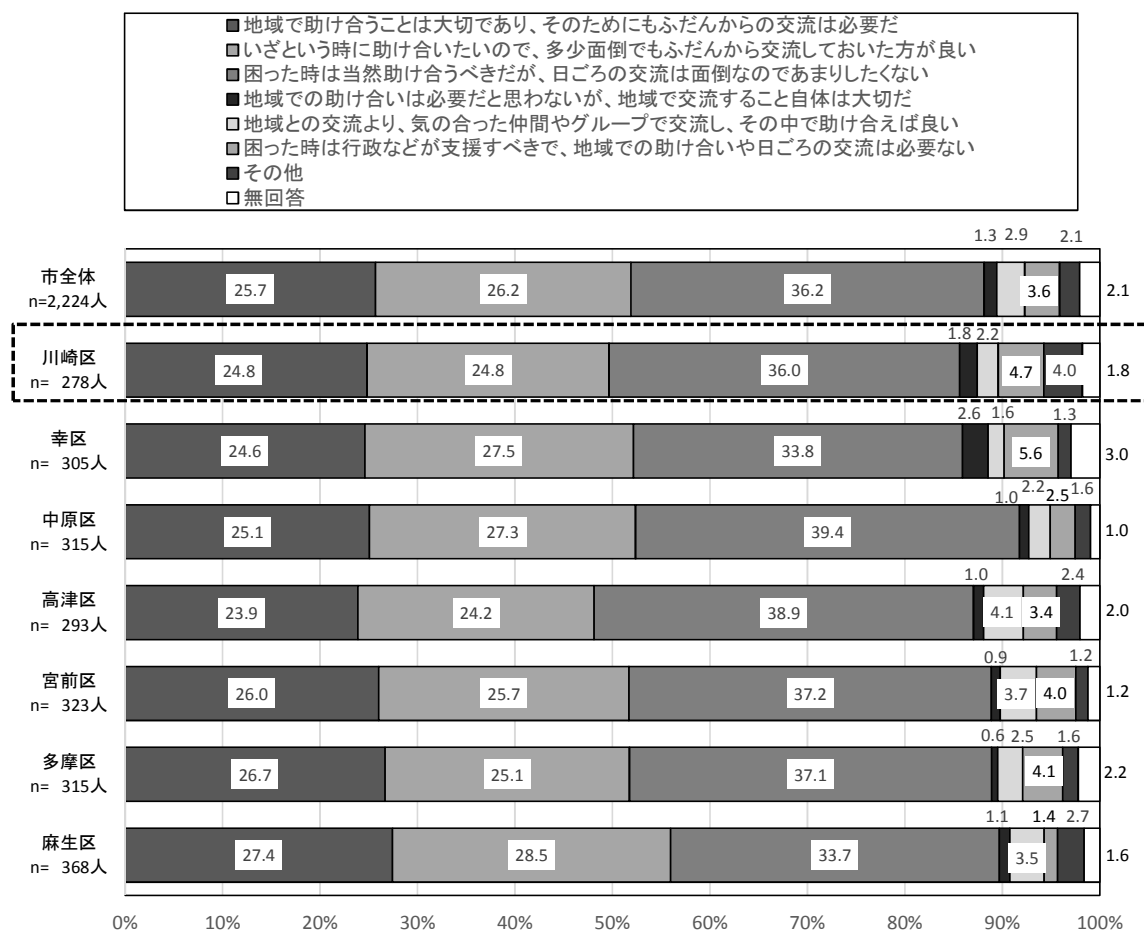


問 15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。

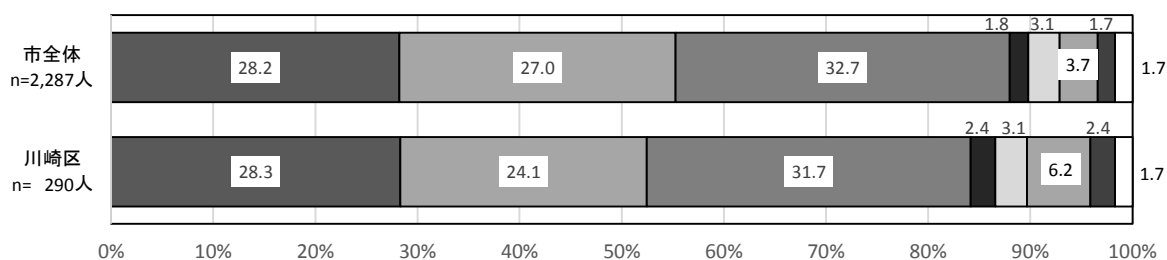
(1つに○)

川崎区では、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合が24.8%で市全体(26.2%)を下回っている。市内6区と比較すると、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合は2番目に低く、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」を合わせた割合は49.6%で2番目に低い。また、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合は36.0%で3番目に低い。

また、第4回調査結果と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合が3.5ポイント減少し、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が4.3ポイント増加している。

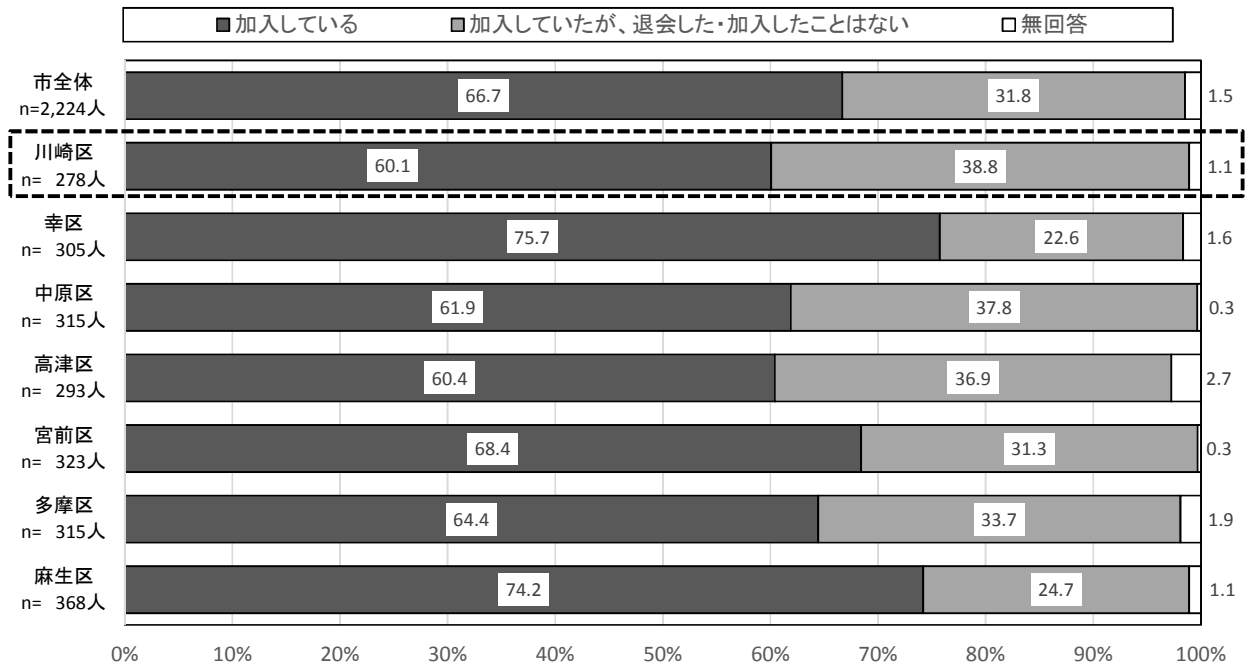


【参考】第4回調査結果



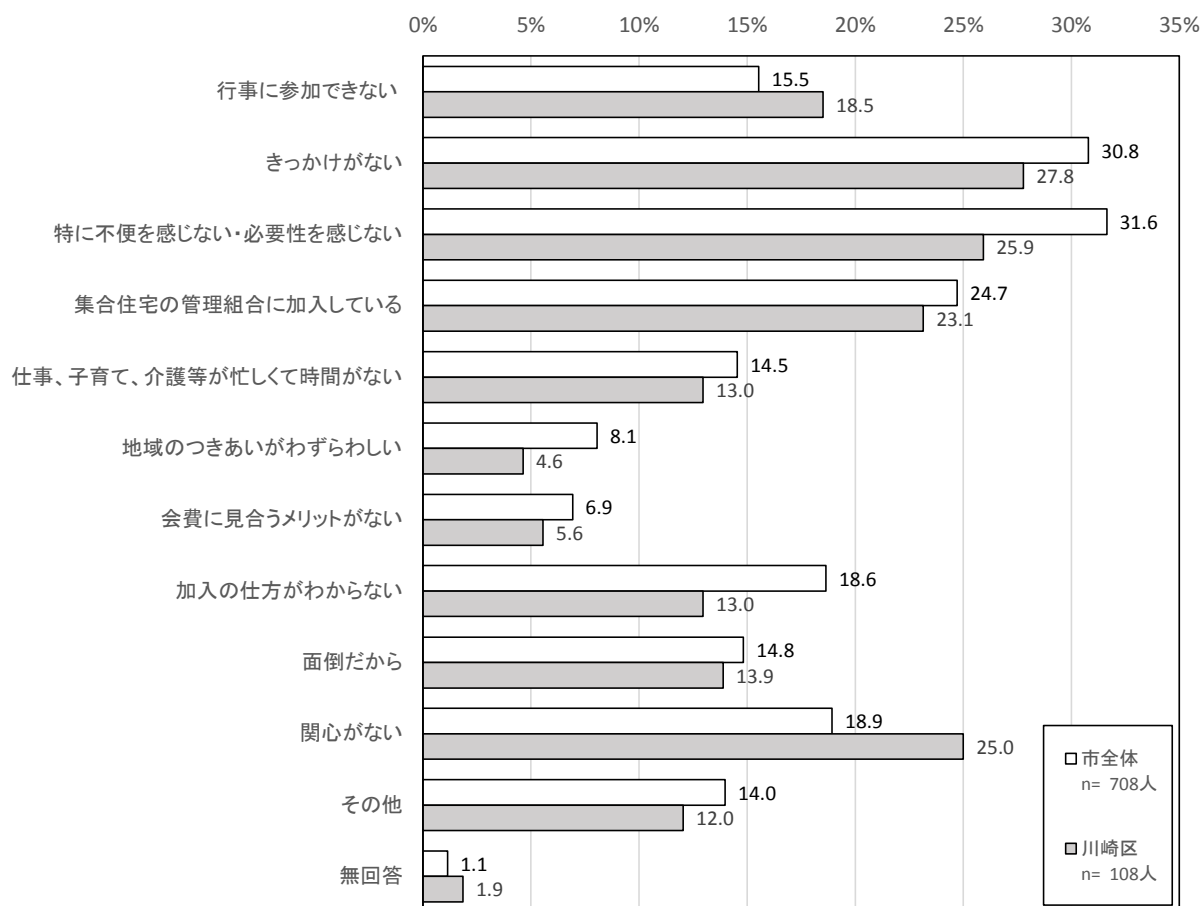
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

川崎区では、「加入している」割合が60.1%で市全体(66.7%)を下回っている。市内6区と比較すると、「加入している」割合は最も低く、最も高い幸区(75.7%)とは15.6ポイントの差がある。



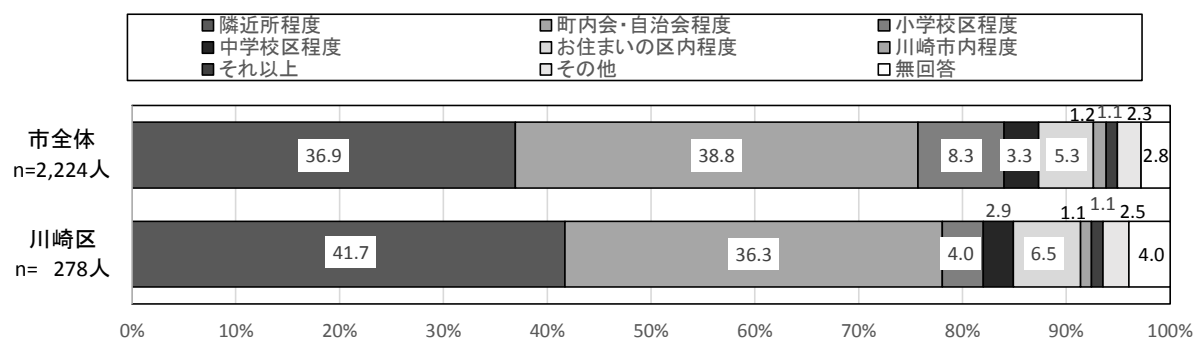
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「きっかけがない」が 27.8% で最も高くなっている。また、「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 25.9% で、市全体（31.6%）を下回っている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

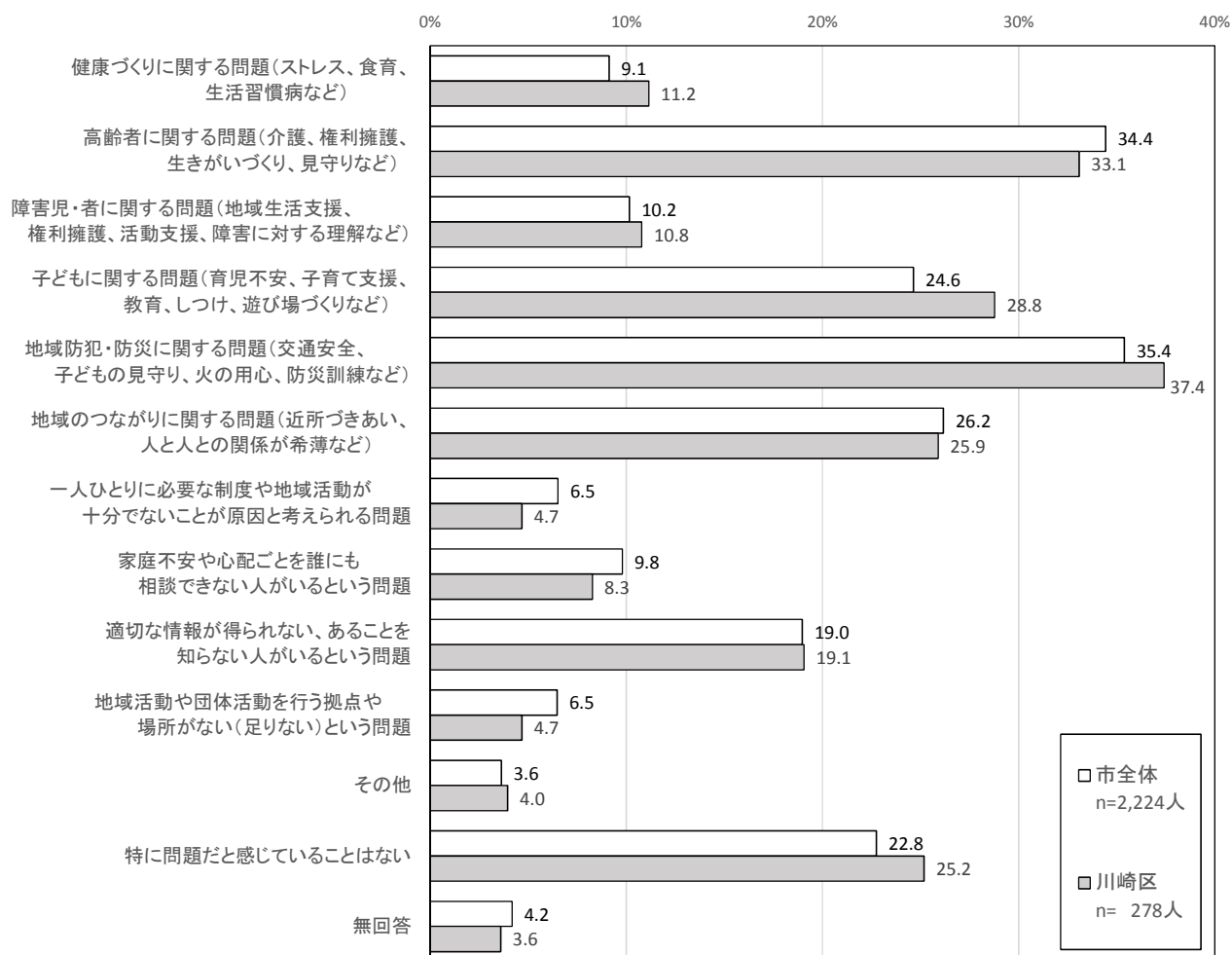
川崎区では、「町内会・自治会程度」の割合が 36.3% で市全体（38.8%）を下回っている。



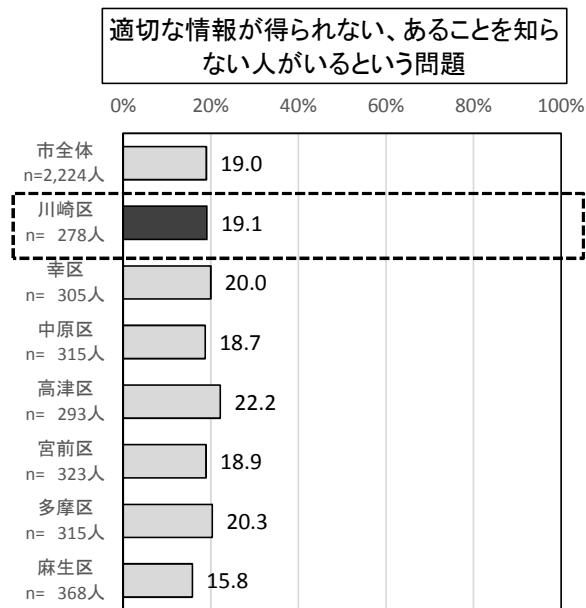
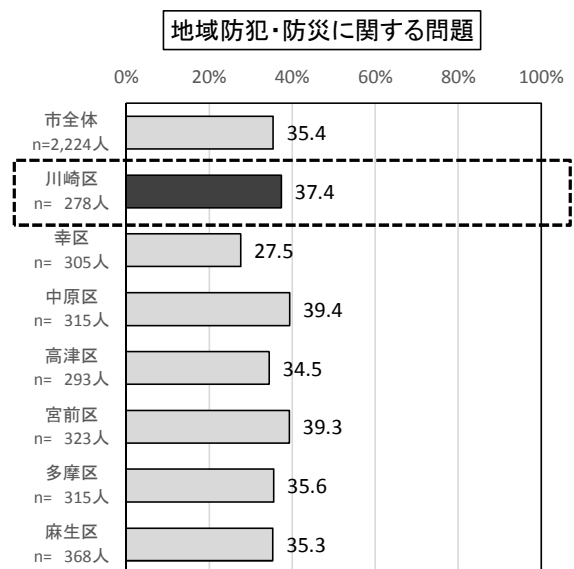
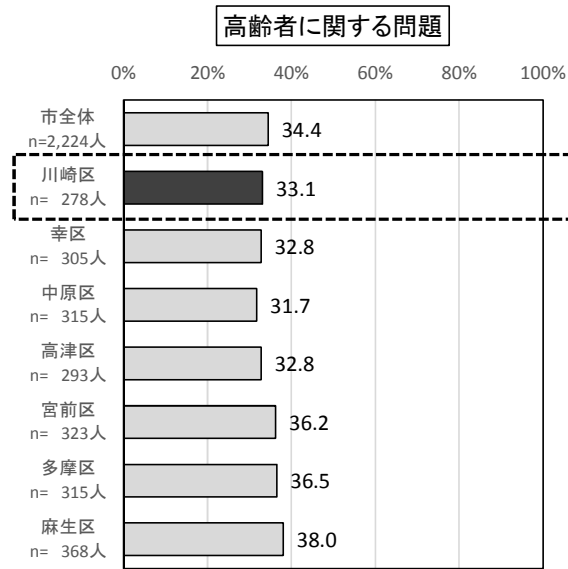
問 18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」の割合が 37.4%で最も高く、次いで「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいつくり、見守りなど）」（33.1%）、「子どもに関する問題（育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど）」（28.8%）となっている。

市内6区と比較すると、「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいつくり、見守りなど）」（33.1%）、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」（19.1%）については4番目に高く、「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」については37.4%で、3番目に高くなっている。

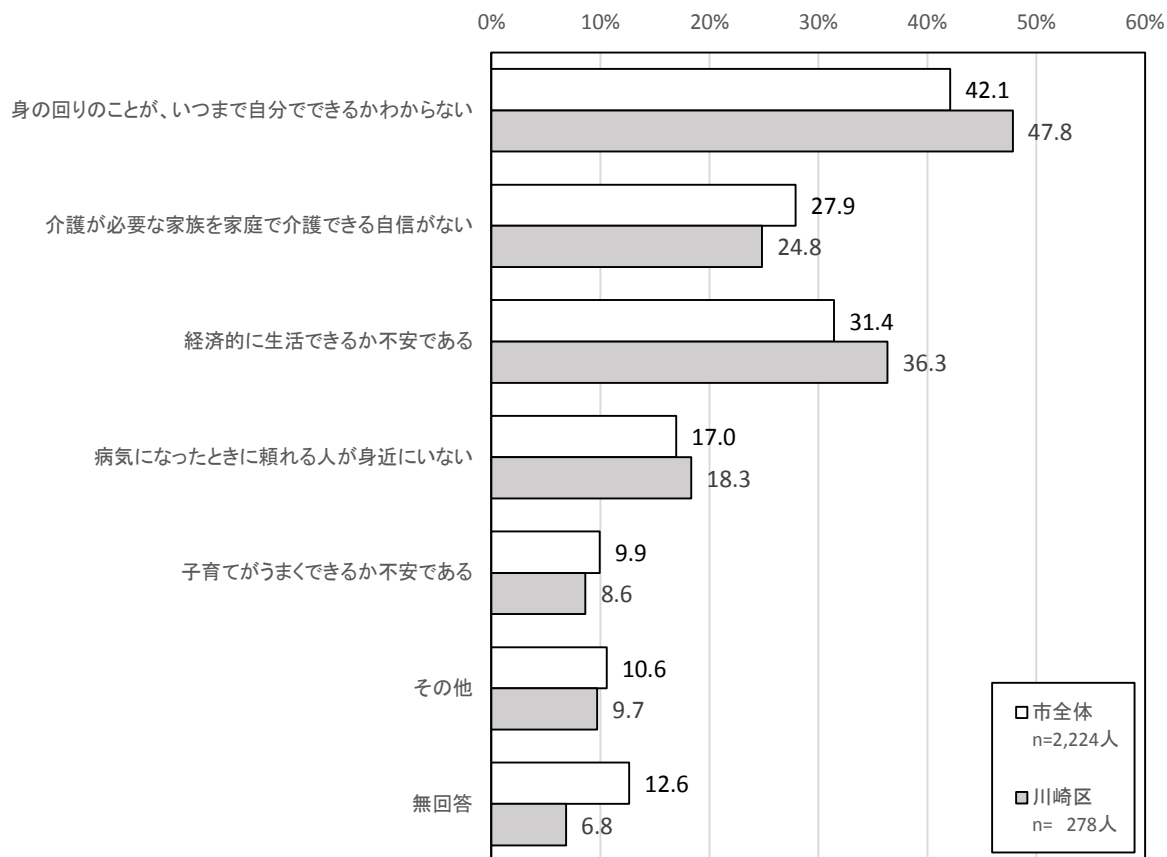


【参考】



問 19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

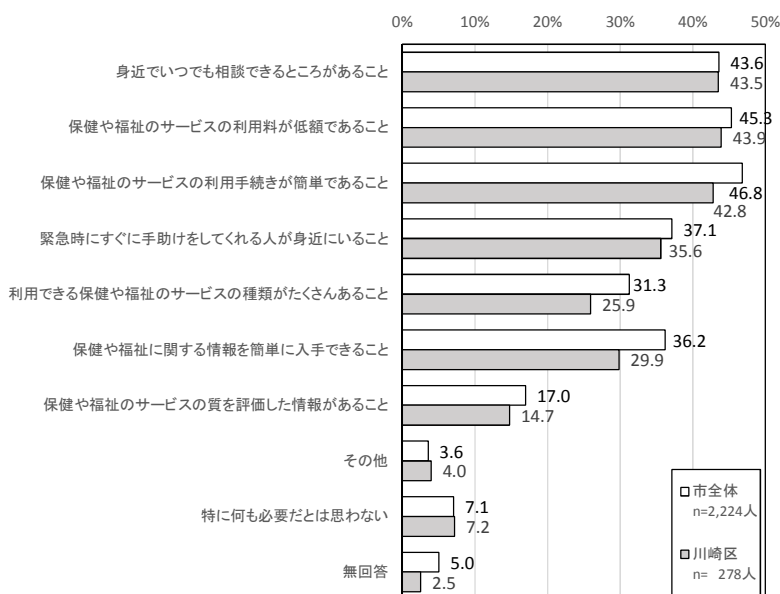
川崎区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が47.8%で最も高く、次いで「経済的に生活できるか不安である」（36.3%）、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」（24.8%）となっている。



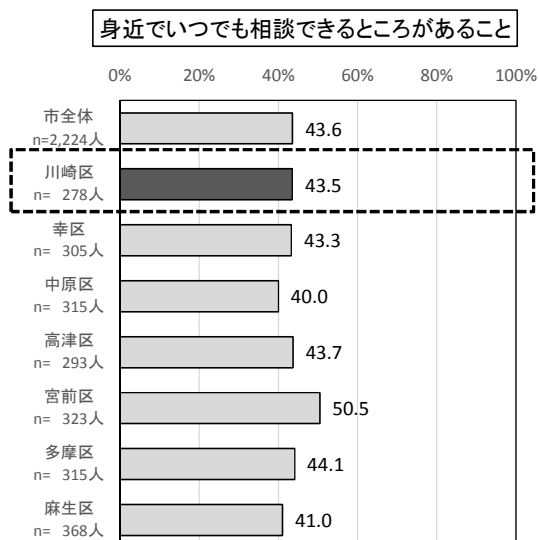
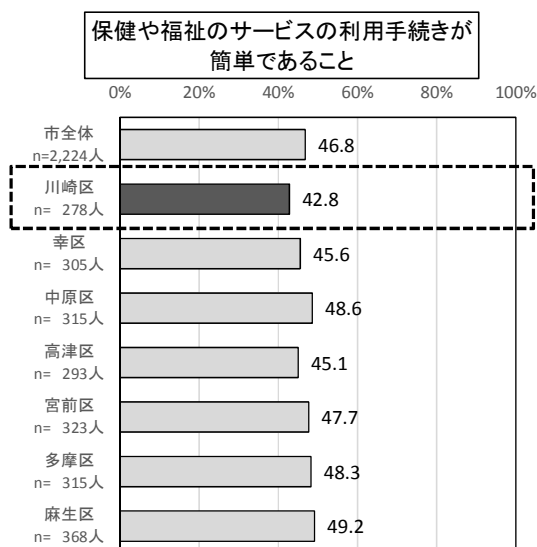
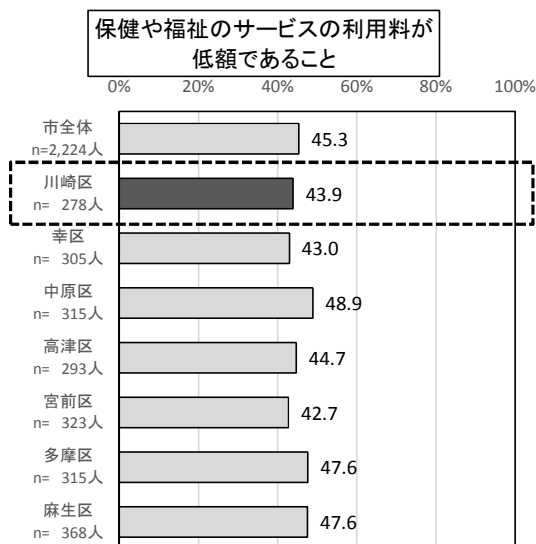
問 20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「保健や福祉サービスの利用料が低額であること」が43.9%で市全体（45.3%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」は43.9%と3番目に低く、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は42.8%と最も低い。また、「身近でいつでも相談できるところ」は43.5%と4番目に高くなっている。



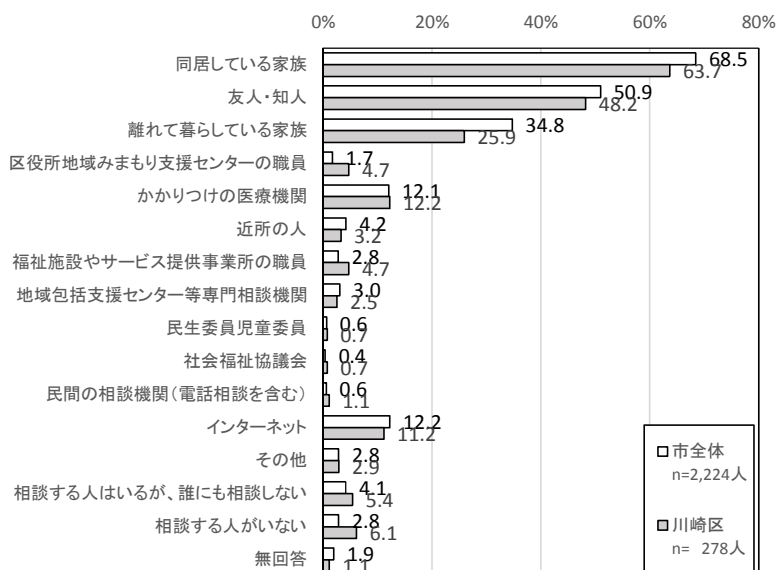
【参考】



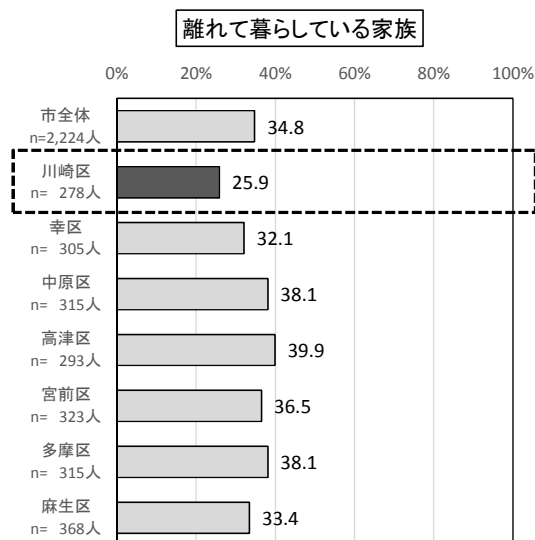
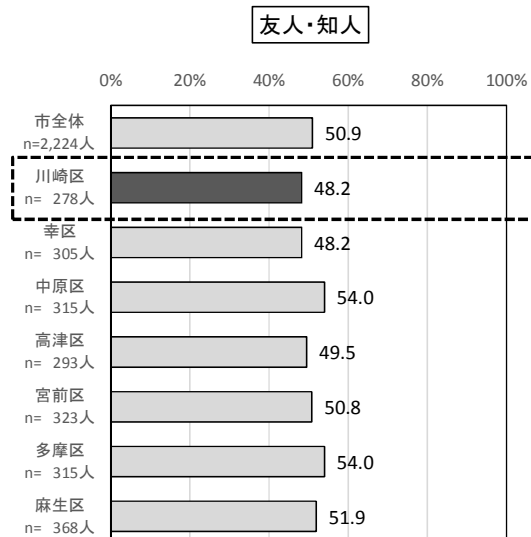
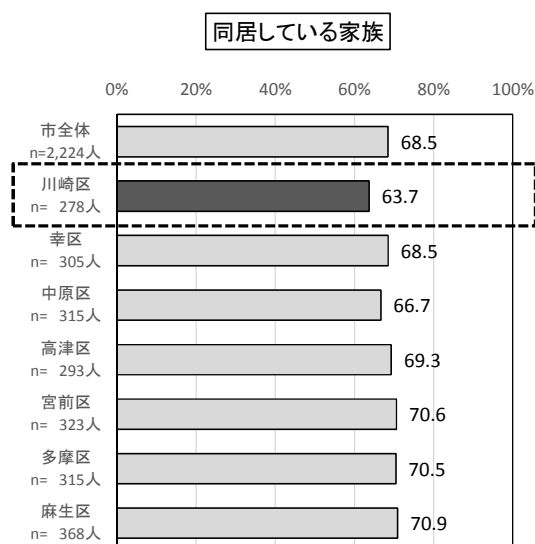
問 21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「同居している家族」が63.7%で市全体（68.5%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」（63.7%）、「友人・知人」（48.2%）、「離れて暮らしている家族」（25.9%）は最も低い。



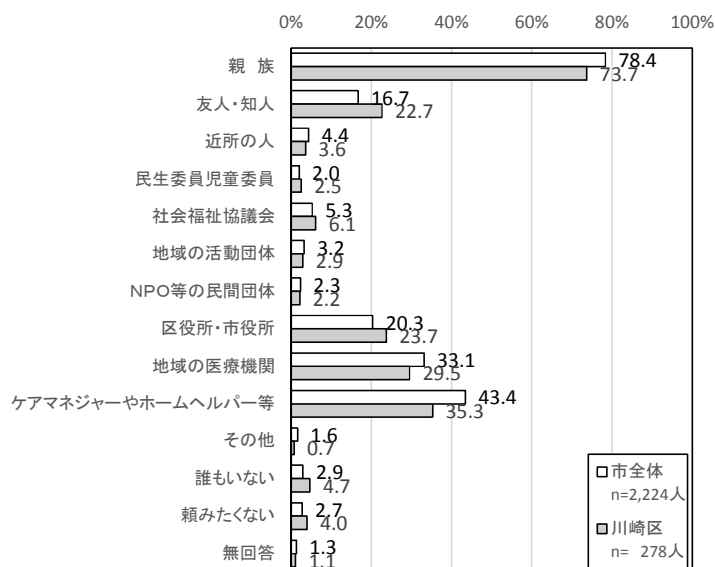
【参考】



問 23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。（3つまでに○）

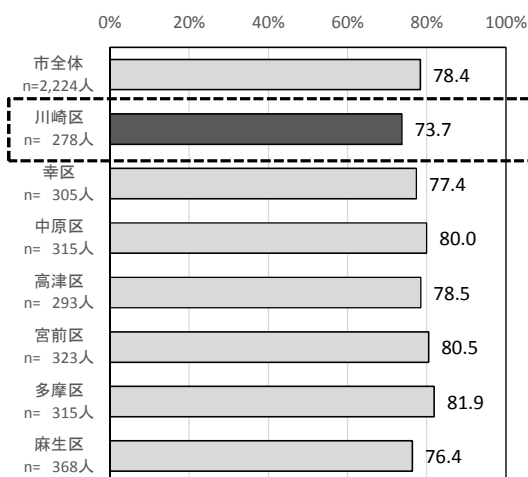
川崎区では、「親族」が73.7%で市全体（78.4%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「親族」（73.7%）、「ケアマネジャーやホームヘルパー」（35.3%）は最も低い。また、「地域の医療機関」は29.5%と2番目に低くなっている。

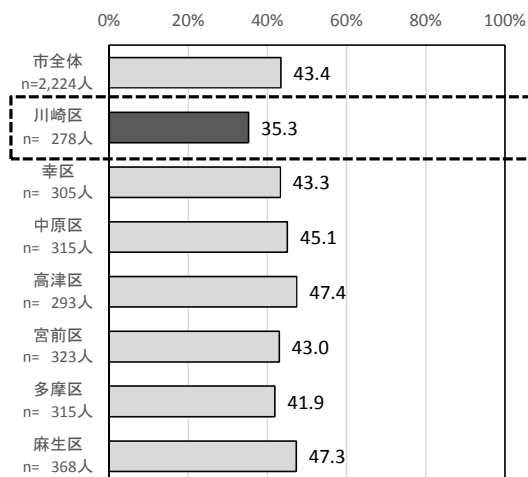


【参考】

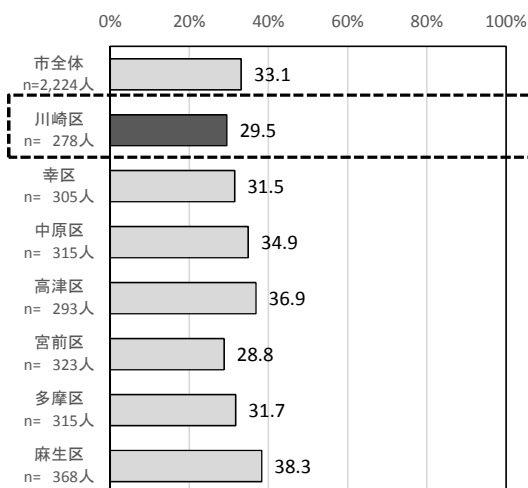
親族



ケアマネジャーやホームヘルパー等



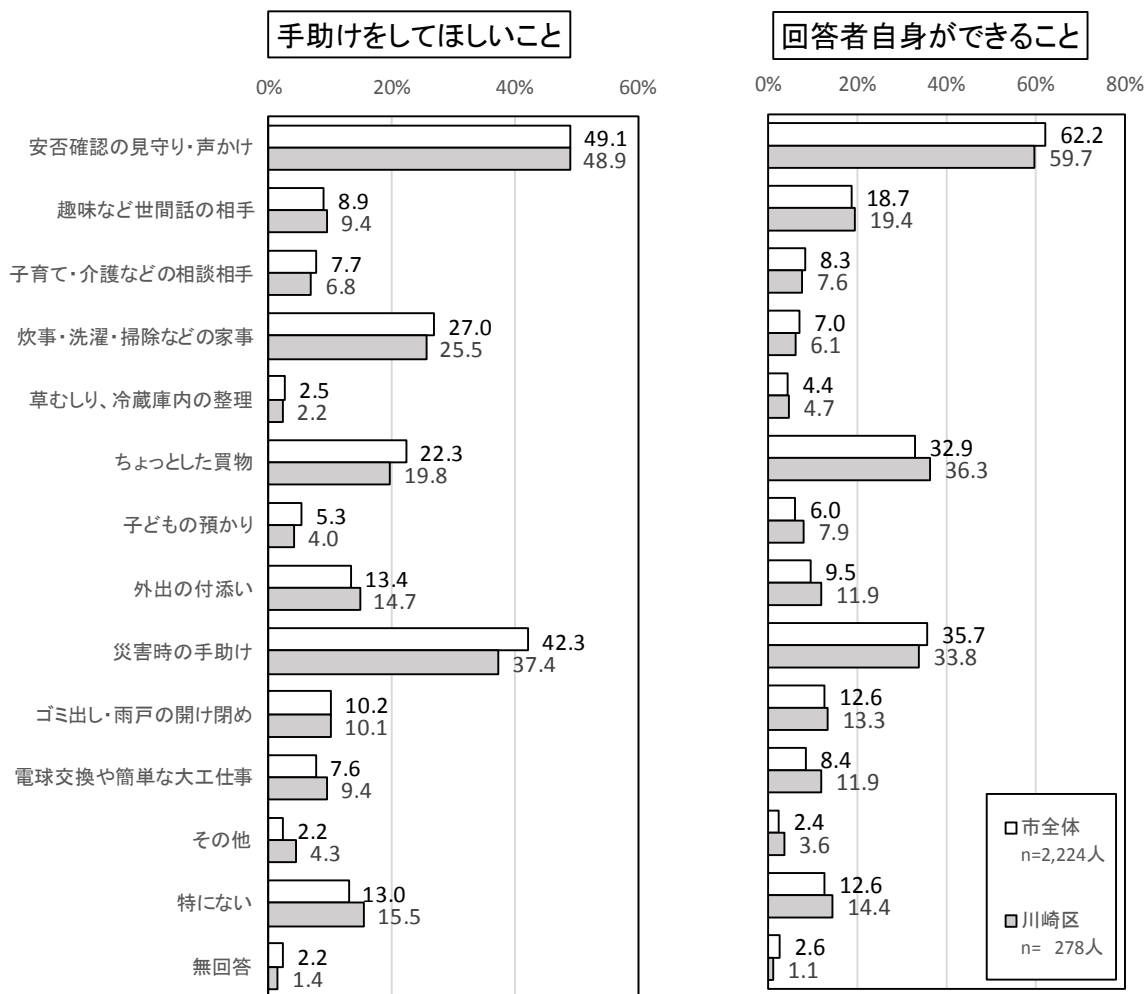
地域の医療機関



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

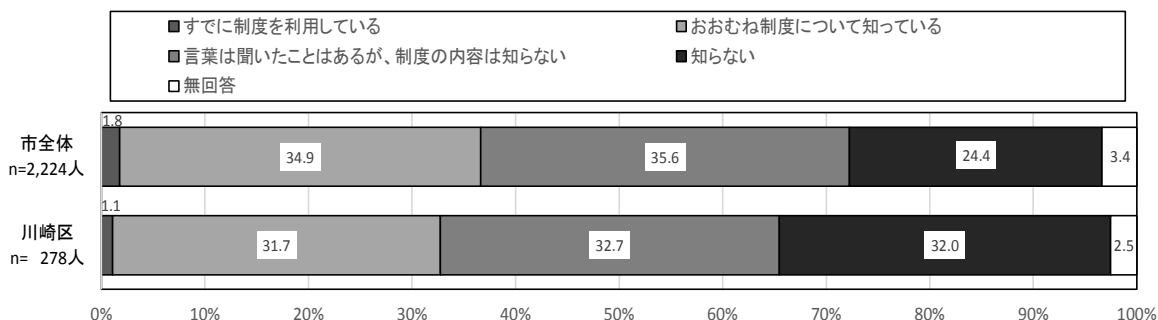
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

川崎区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が48.9%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（37.4%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（25.5%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が59.7%で最も高く、次いで「ちょっとした買い物」（36.3%）、「災害時の手助け」（33.8%）となっている。



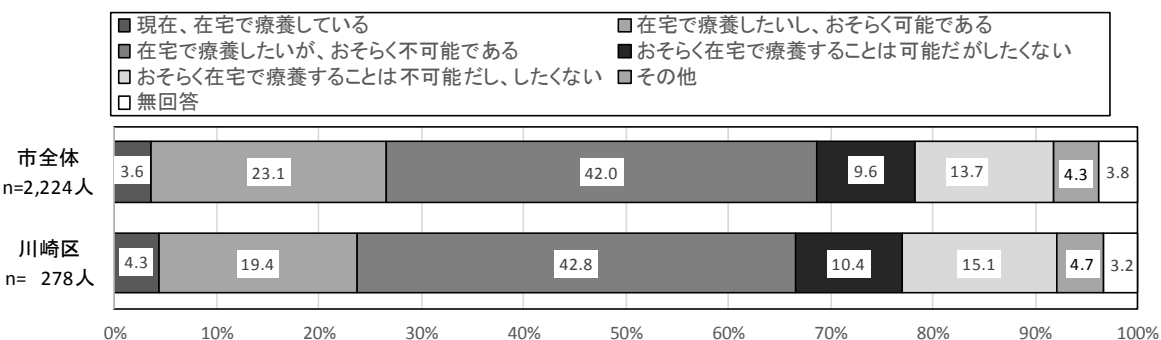
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○) (新規設問)

川崎区では、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が32.7%で最も高く、次いで「知らない」(32.0%)、「おおむね制度について知っている」(31.7%)となっている。



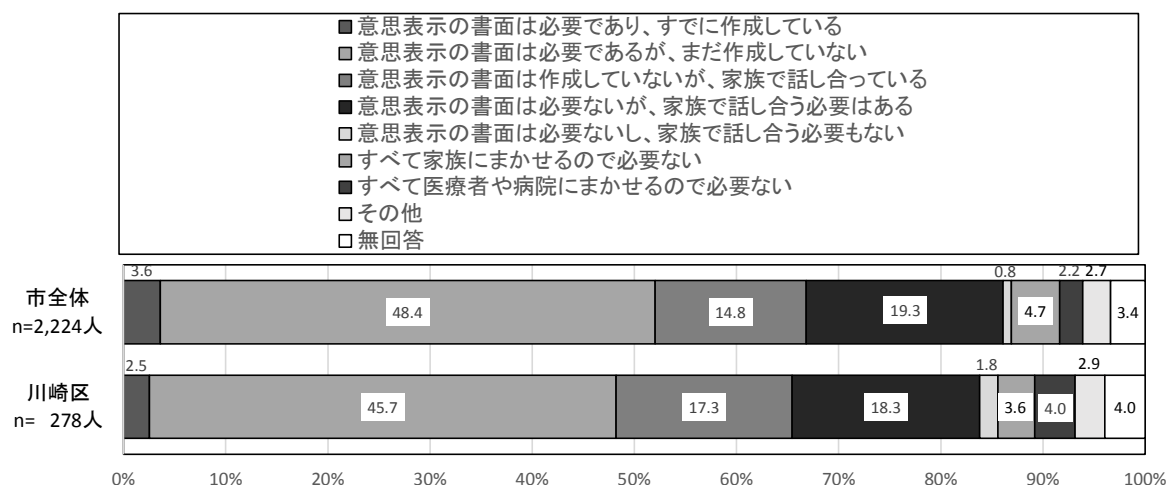
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○) (新規設問)

川崎区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が42.8%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」(19.4%)、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」(15.1%)となっている。



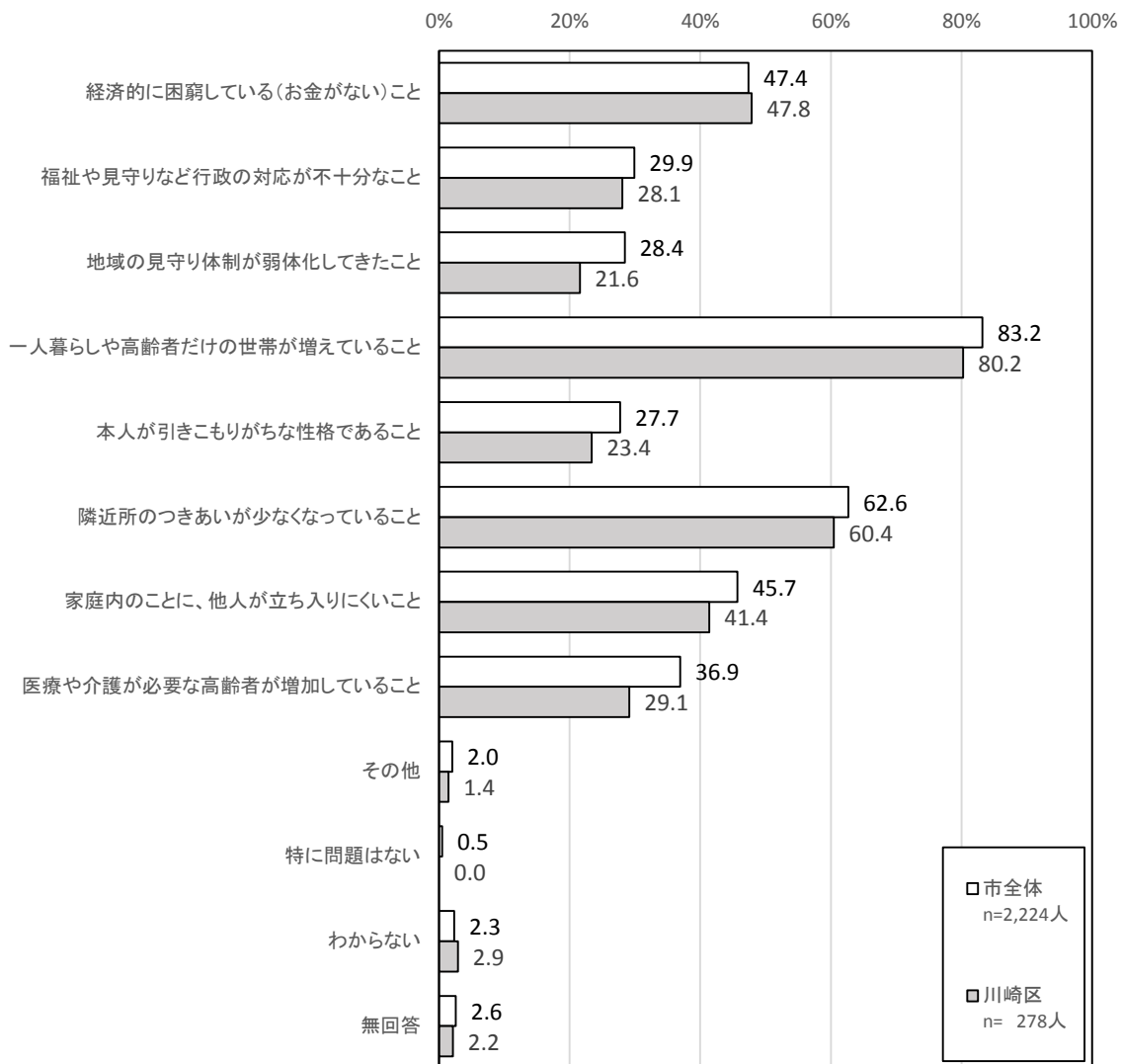
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。(1つに○) (新規設問)

川崎区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が45.7%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」(18.3%)、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」(17.3%)となっている。



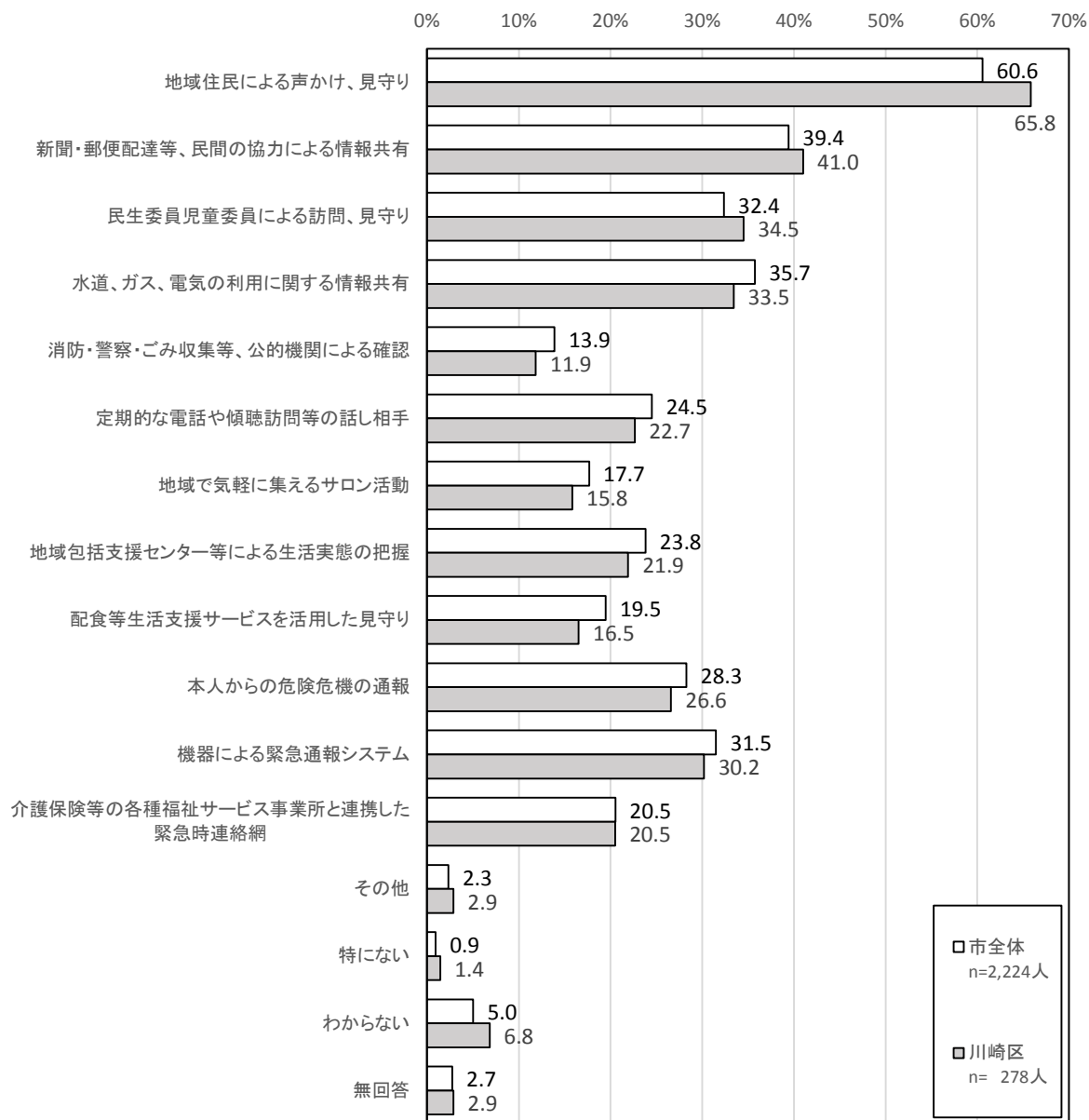
問 29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が 80.2%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」（60.4%）、「経済的に困窮している（お金がない）こと」（47.8%）となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

川崎区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が65.8%で最も高く、次いで「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(41.0%)、「民生委員児童委員による訪問、見守り」(34.5%)となっている。

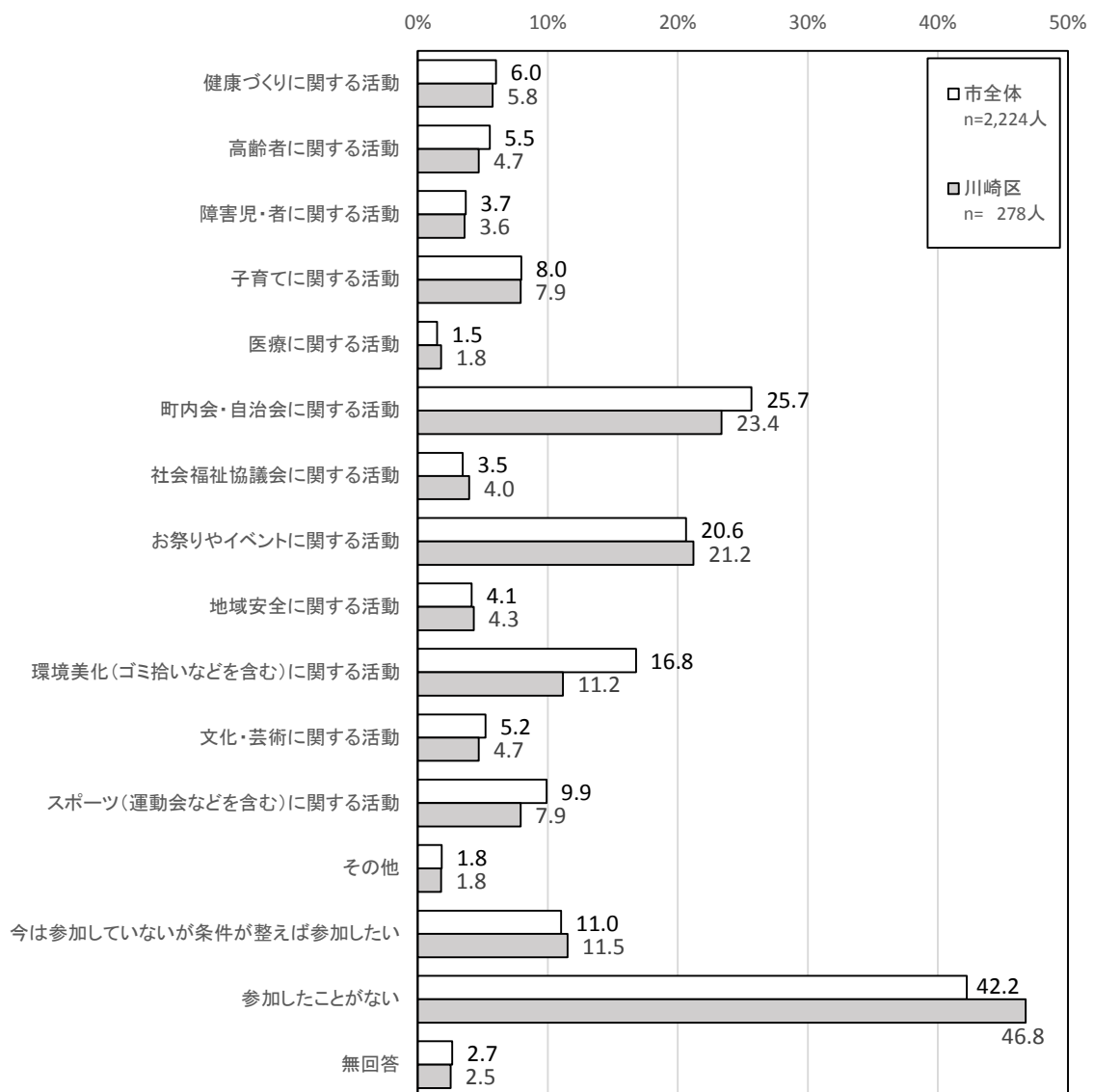


4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

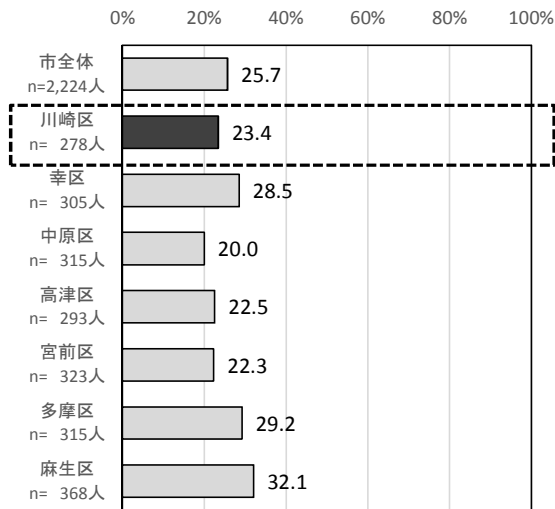
川崎区では、「参加したことがない」の割合が46.8%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（23.4%）、「お祭りやイベントに関する活動」（21.2%）となっている。

市内6区と比較すると、「参加したことがない」の割合は46.8%で最も高い。「町内会・自治会に関する活動」（23.4%）、「社会福祉協議会に関する活動」（4.0%）については、4番目に高くなっている。また、「環境美化に関する活動」の割合は11.2%で最も低い。

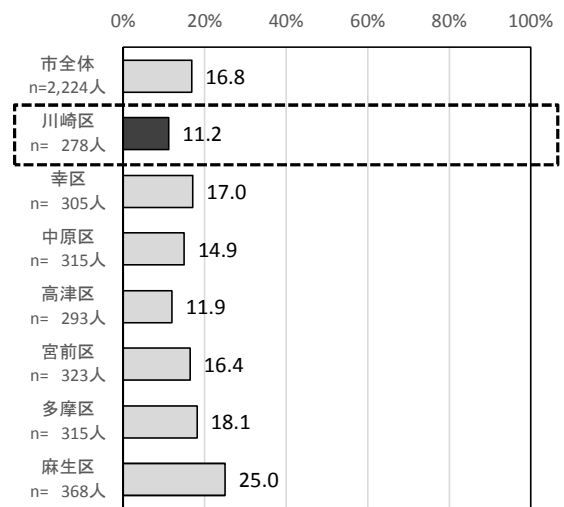


【参考】

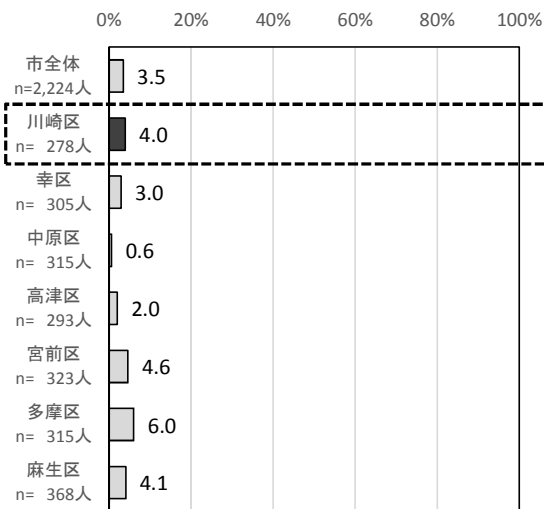
町内会・自治会に関する活動



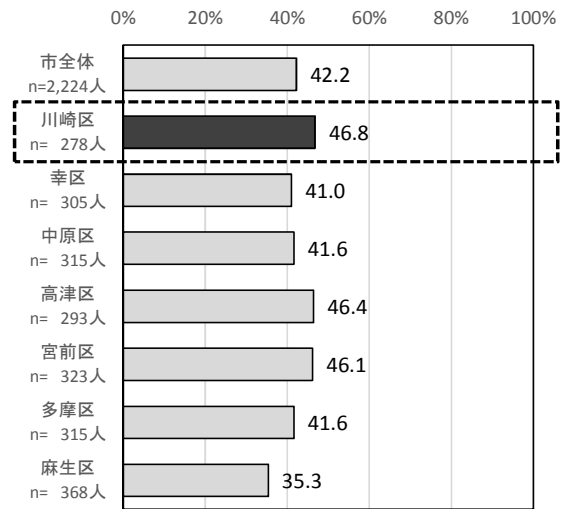
環境美化に関する活動



社会福祉協議会に関する活動



参加したことがない

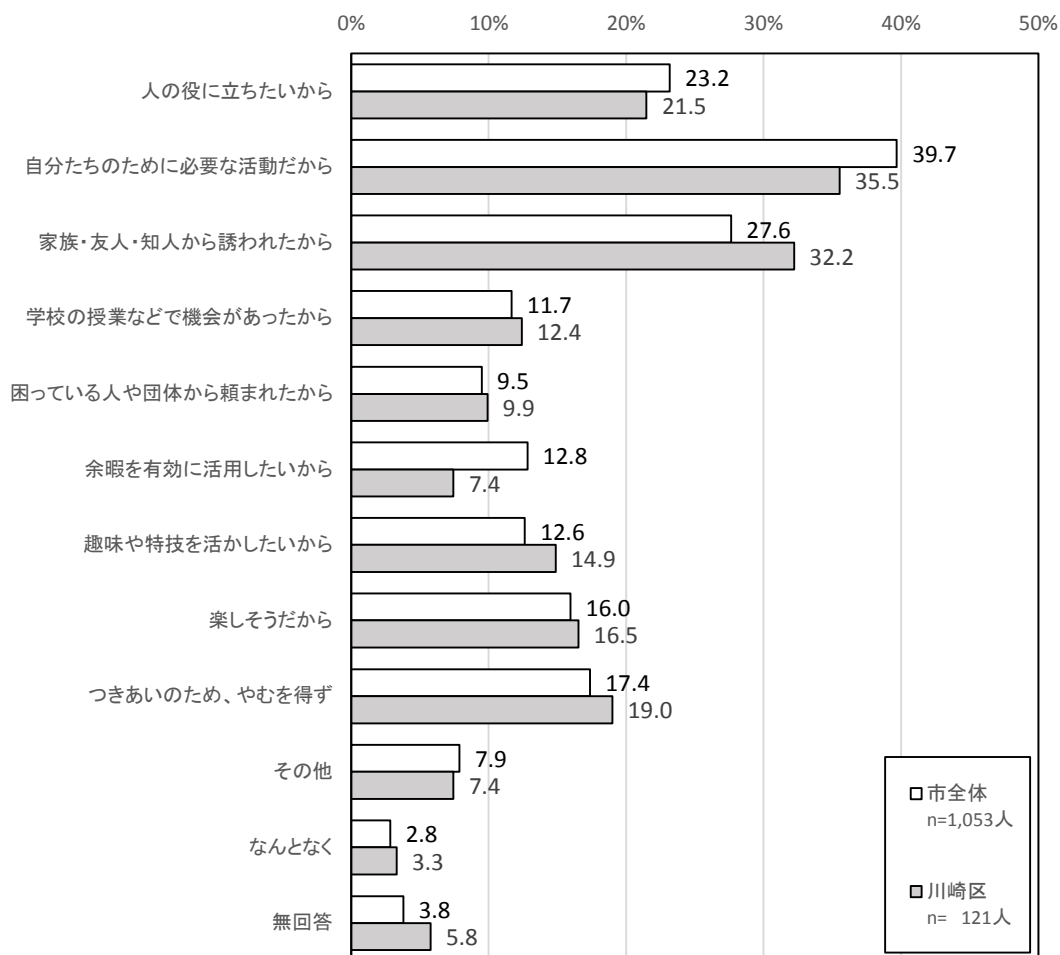


問 31 - 1 《問 31 で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》

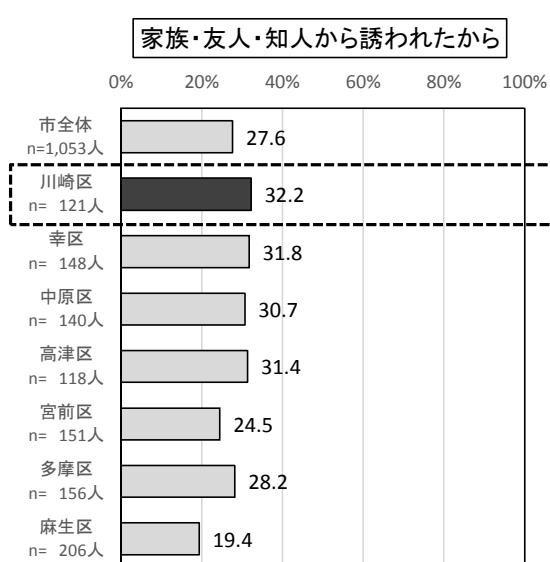
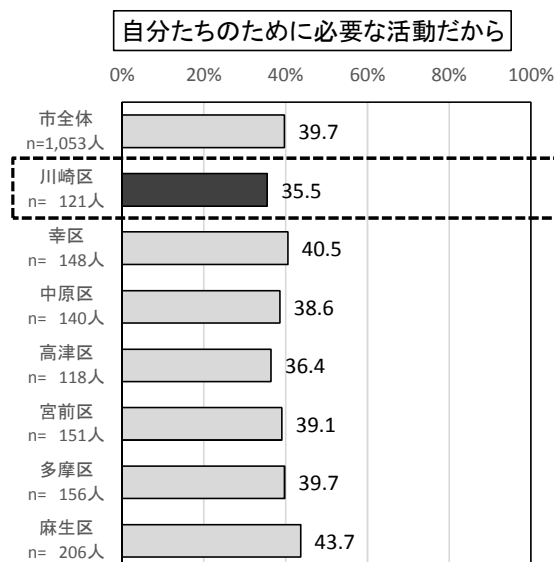
活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が 35.5%で最も高く、次いで「家族・友人・知人から誘われたから」（32.2%）、「人の役に立ちたいから」（21.5%）となっている。

市内6区と比較すると、「自分たちのために必要な活動だから」の割合は 35.5%と最も低く、「家族・友人・知人から誘われたから」の割合は 32.2%と最も高くなっている。



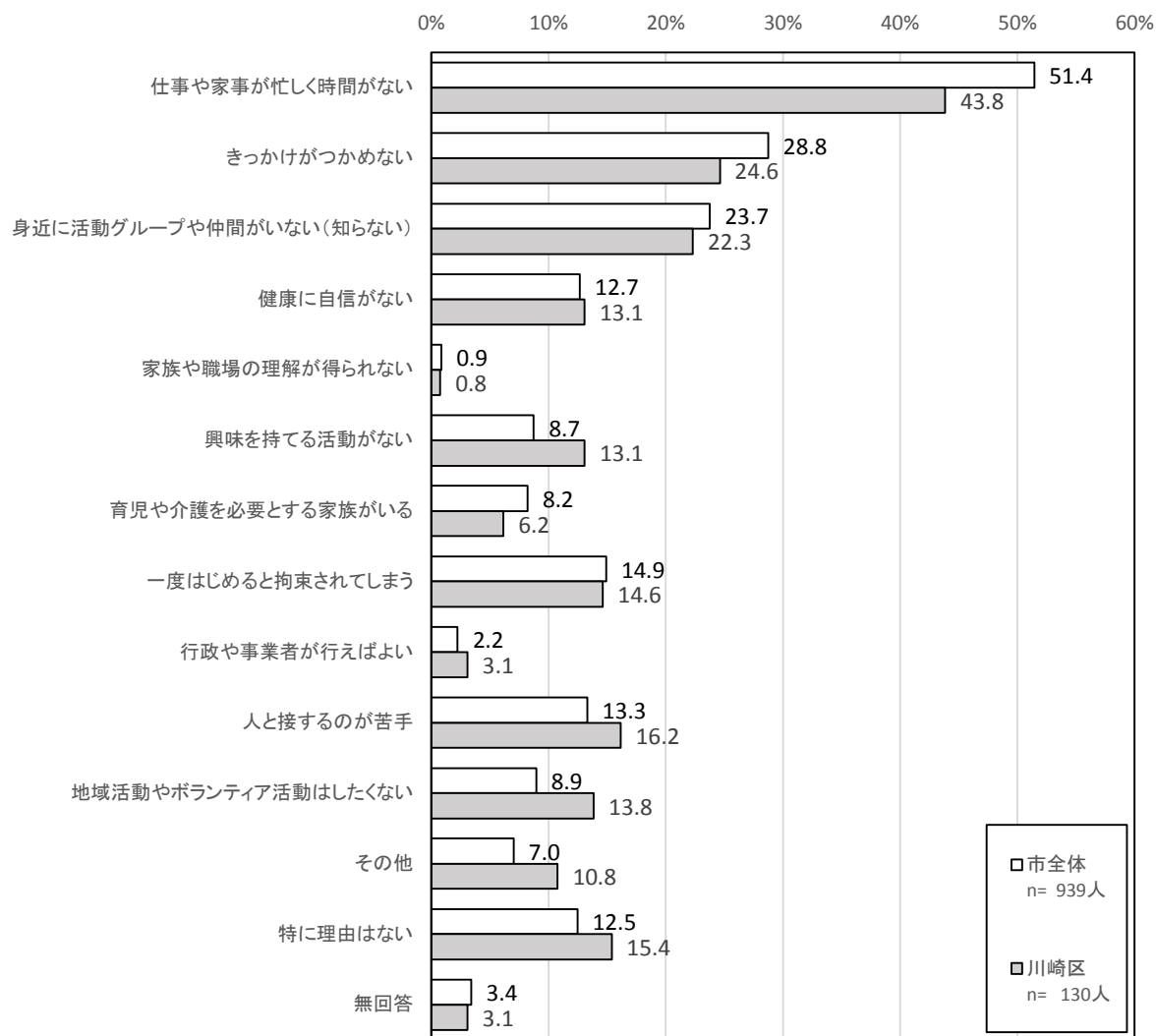
【参考】



問 31 - 6 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。
 (あてはまるものすべてに○)

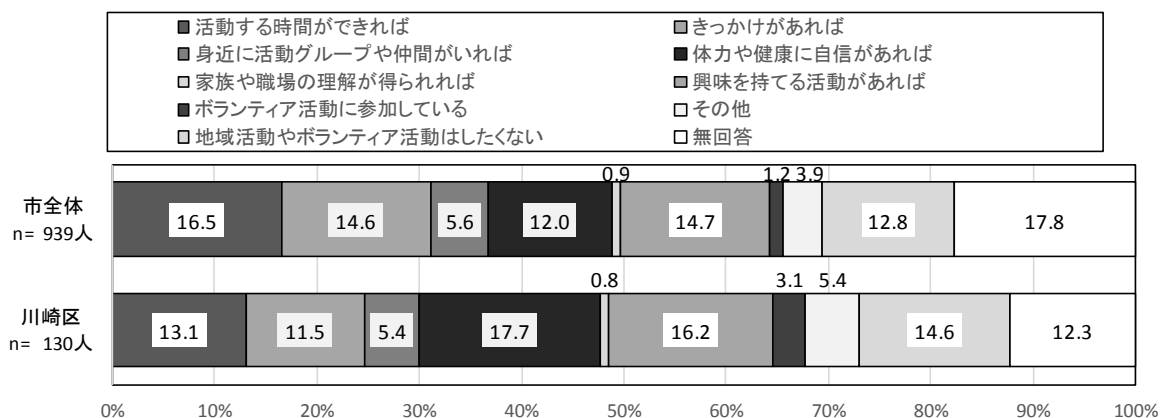
川崎区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が 43.8%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」(24.6%)、「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」(22.3%)となっている。



問 31 - 7 《問 31 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。（1つに○）

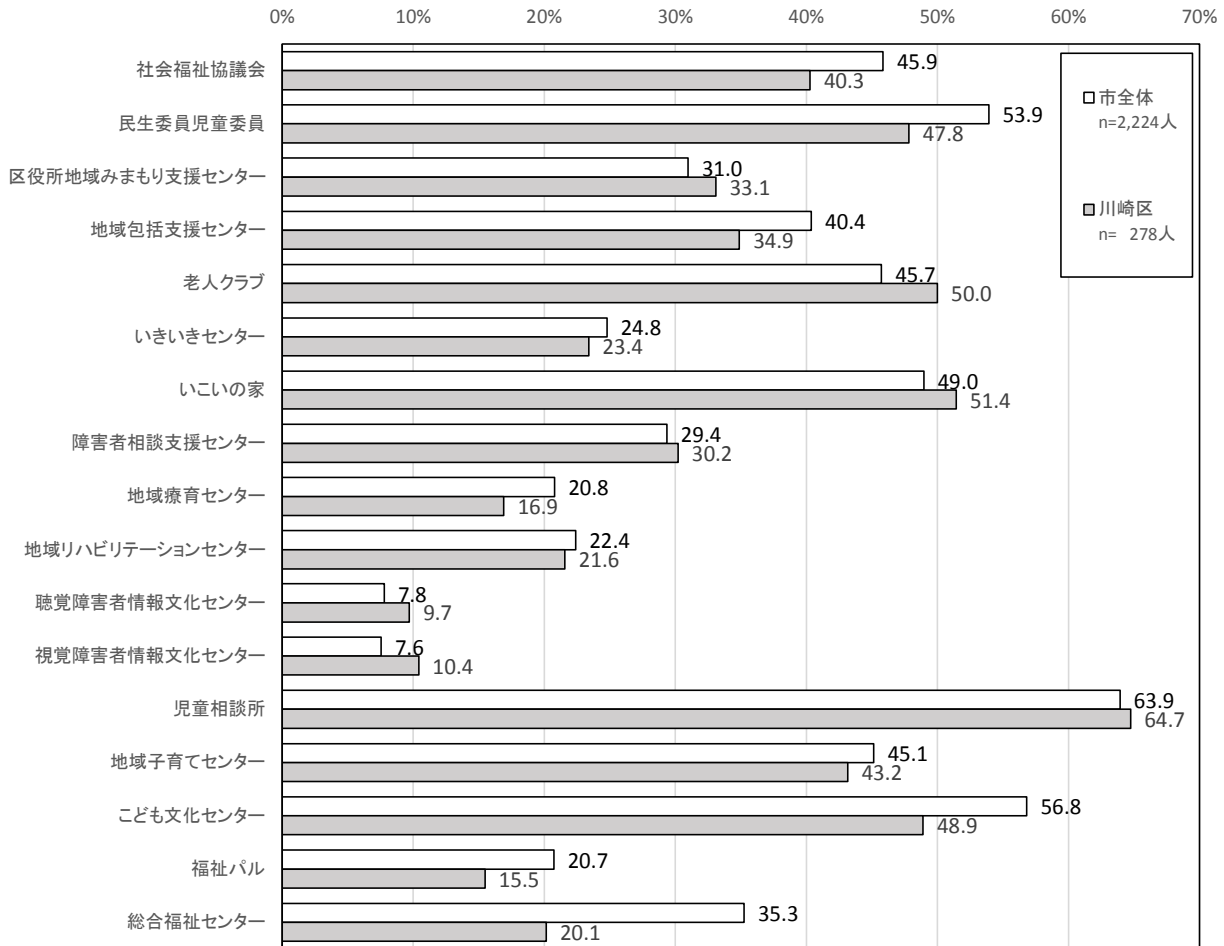
川崎区では、「体力や健康に自信があれば」の割合が17.7%で最も高く、次いで「興味を持てる活動があれば」（16.2%）、「地域活動やボランティア活動はしたくない」（14.6%）、「活動する時間ができれば」（13.1%）となっている。



5. 保健・福祉に関することについて

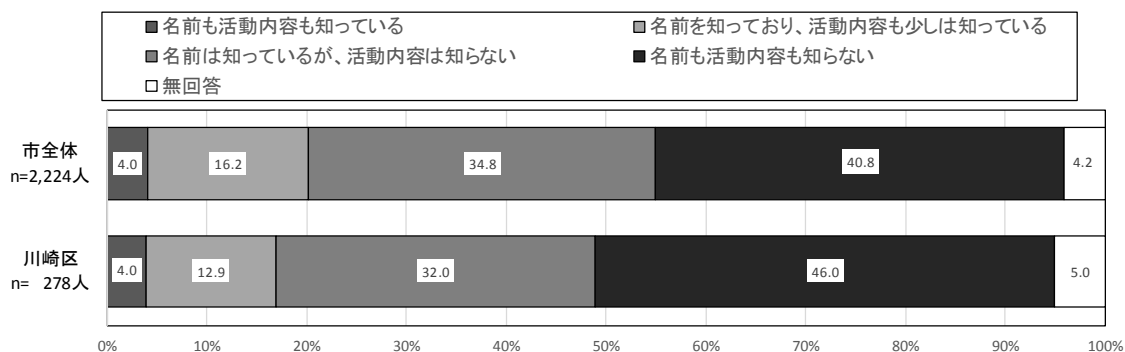
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。（団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○）

川崎区では、「児童相談所」の割合が64.7%で最も高く、次いで「いこいの家」（51.4%）、「老人クラブ」（50.0%）となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。（1つに○）

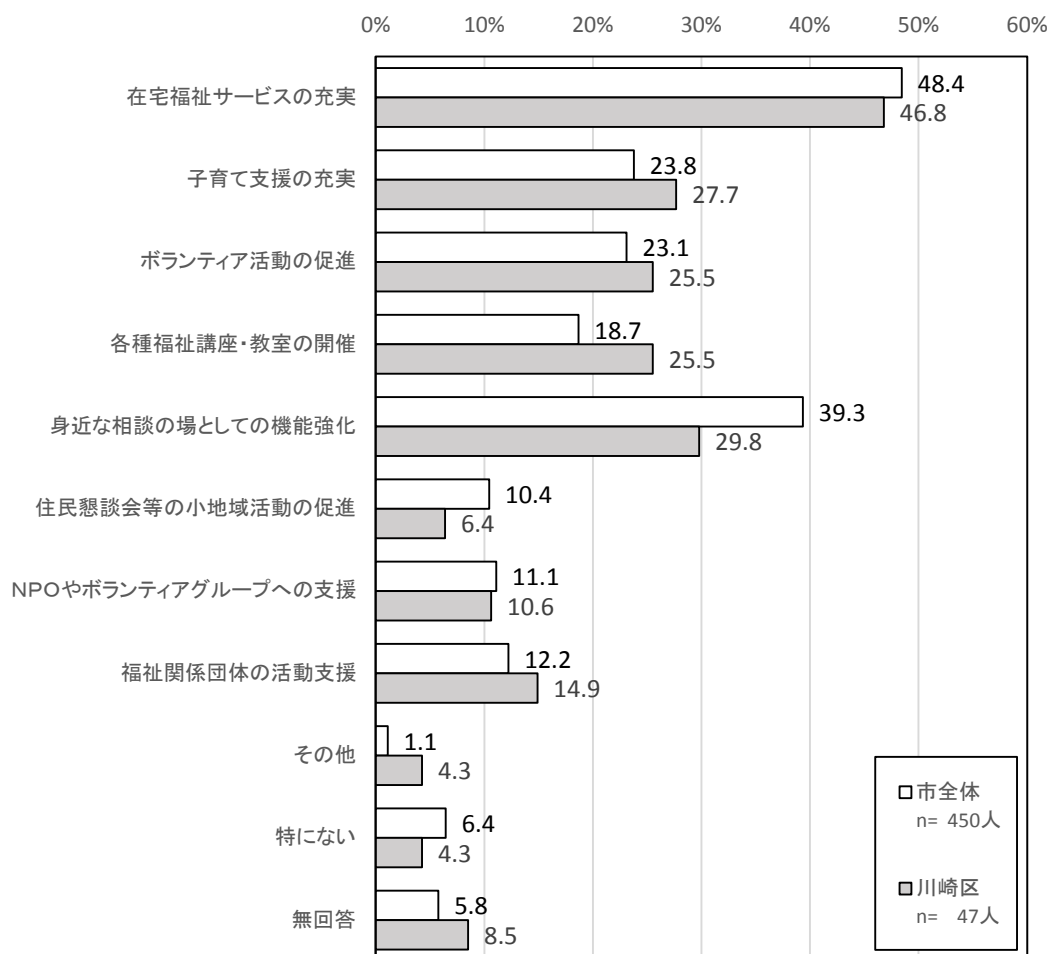
川崎市では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が16.9%で、市全体（20.2%）を下回っている。



問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

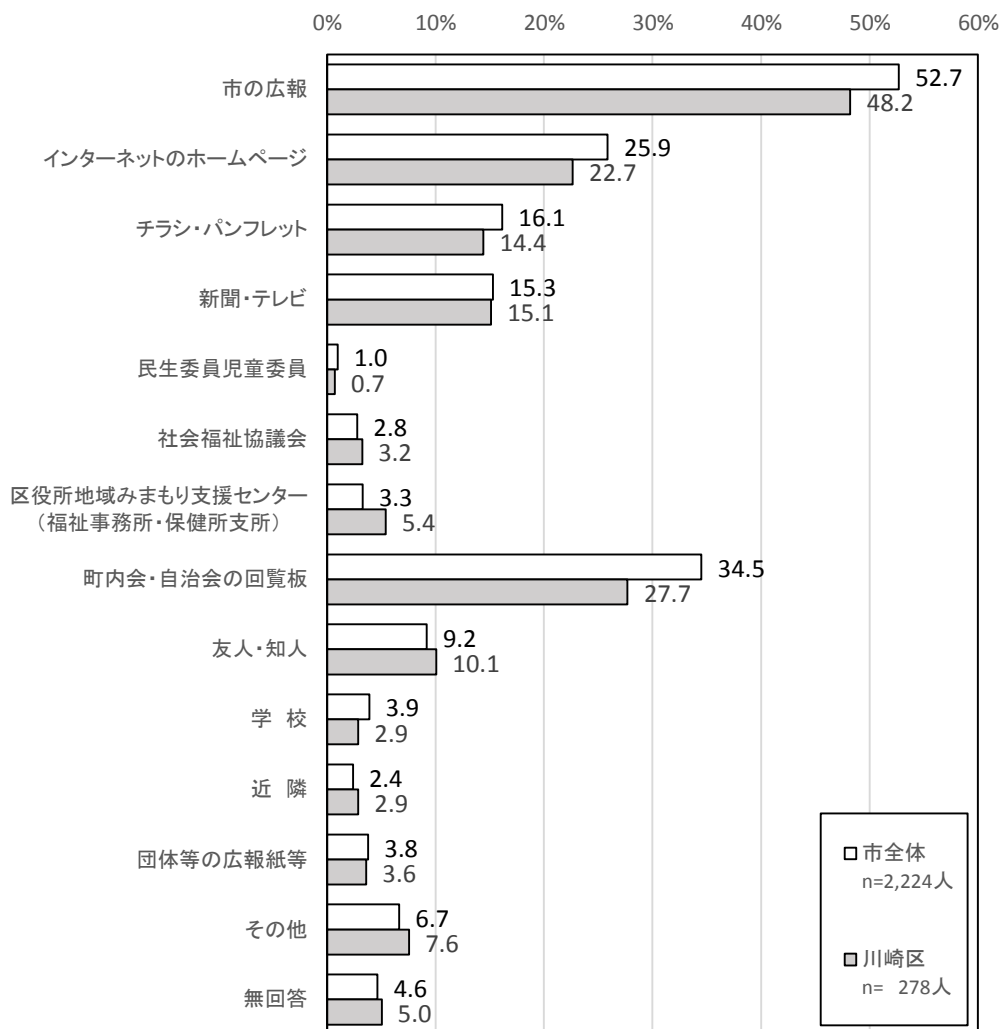
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。（3つまでに○）

川崎市では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が46.8%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」（29.8%）、「子育て支援の充実」（27.7%）となっている。



問 34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

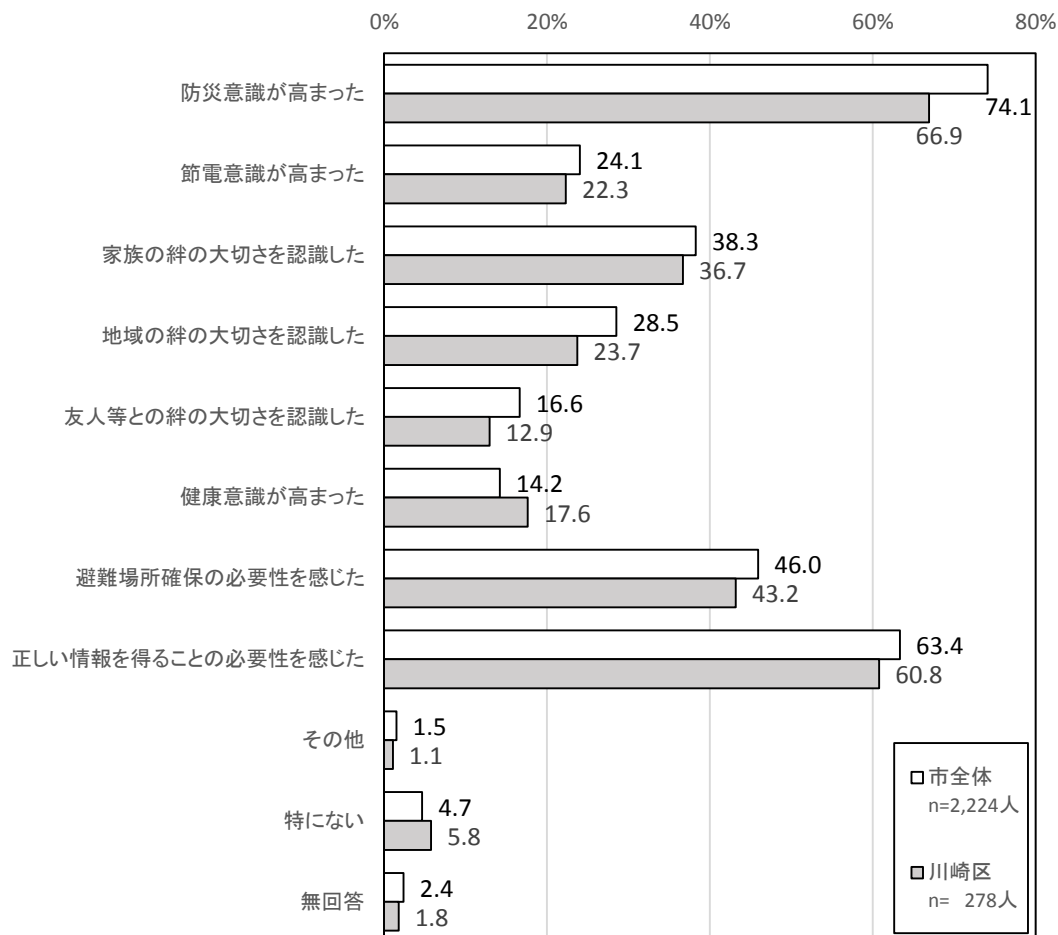
川崎区では、「市の広報」の割合が48.2%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(27.7%)、「インターネットのホームページ」(22.7%)となっている。



6. 東日本大震災後の意識の変化について

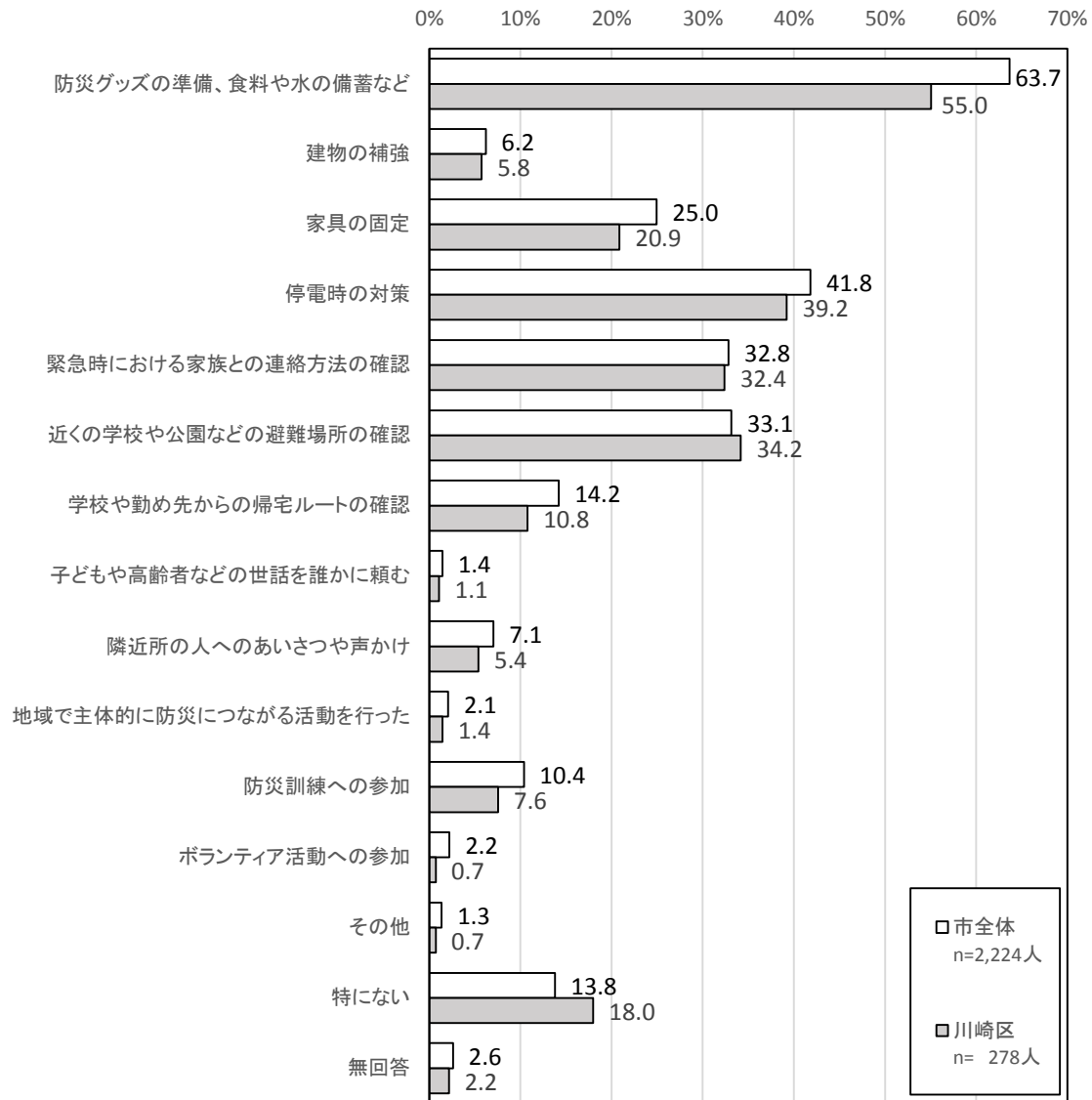
問 36 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

川崎区では、「防災意識が高まった」の割合が 66.9%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(60.8%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(43.2%)となっている。



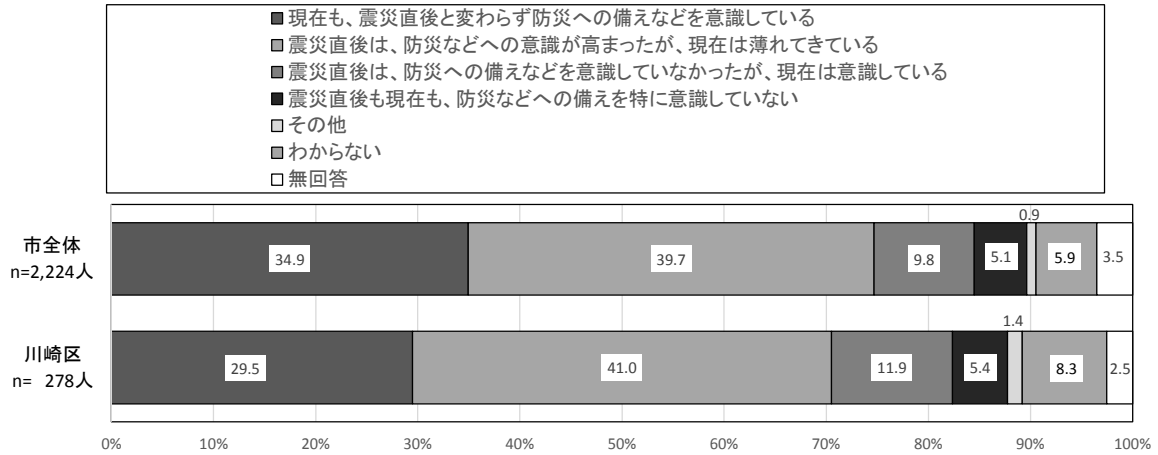
問 37 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が 55.0%で最も高く、次いで「停電時の対策」（39.2%）、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」（34.2%）となっている。



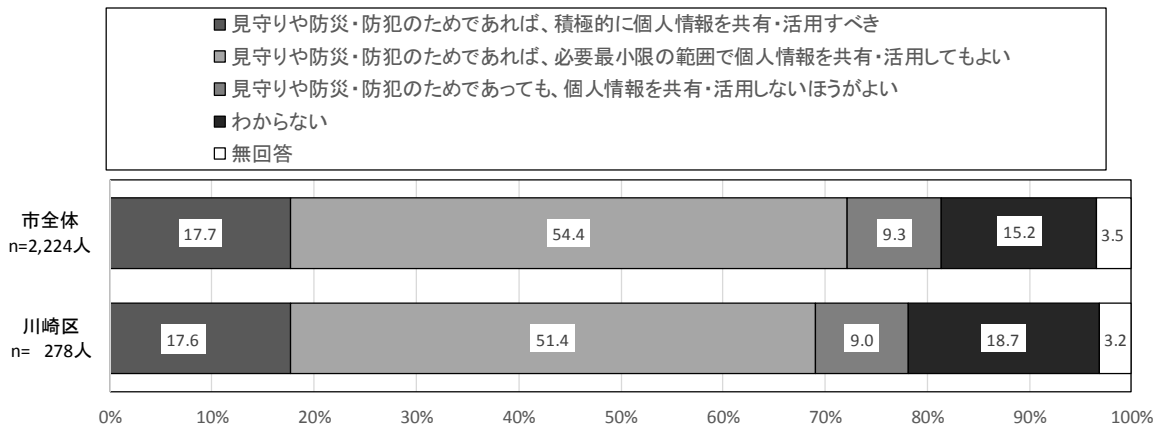
問 38 東日本大震災から8年経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

川崎市では、「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」の割合が41.0%で最も高く、次いで「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」(29.5%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(11.9%)となっている。



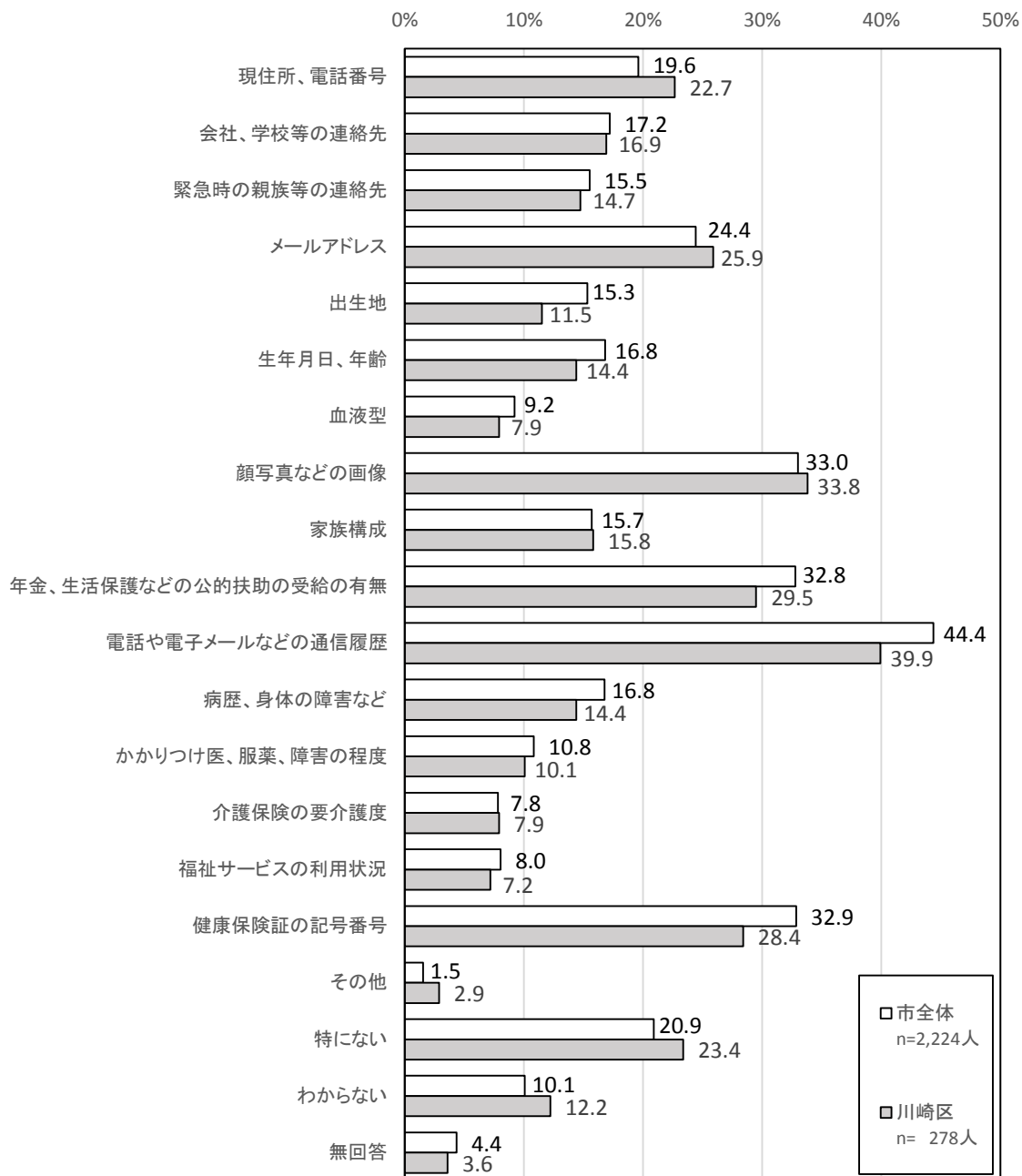
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

川崎市では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」、「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が69.0%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

川崎区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が39.9%で最も高く、次いで「顔写真などの画像」(33.8%)、「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」(29.5%)となっており、そのうち「顔写真などの画像」のみ市全体を上回っている。

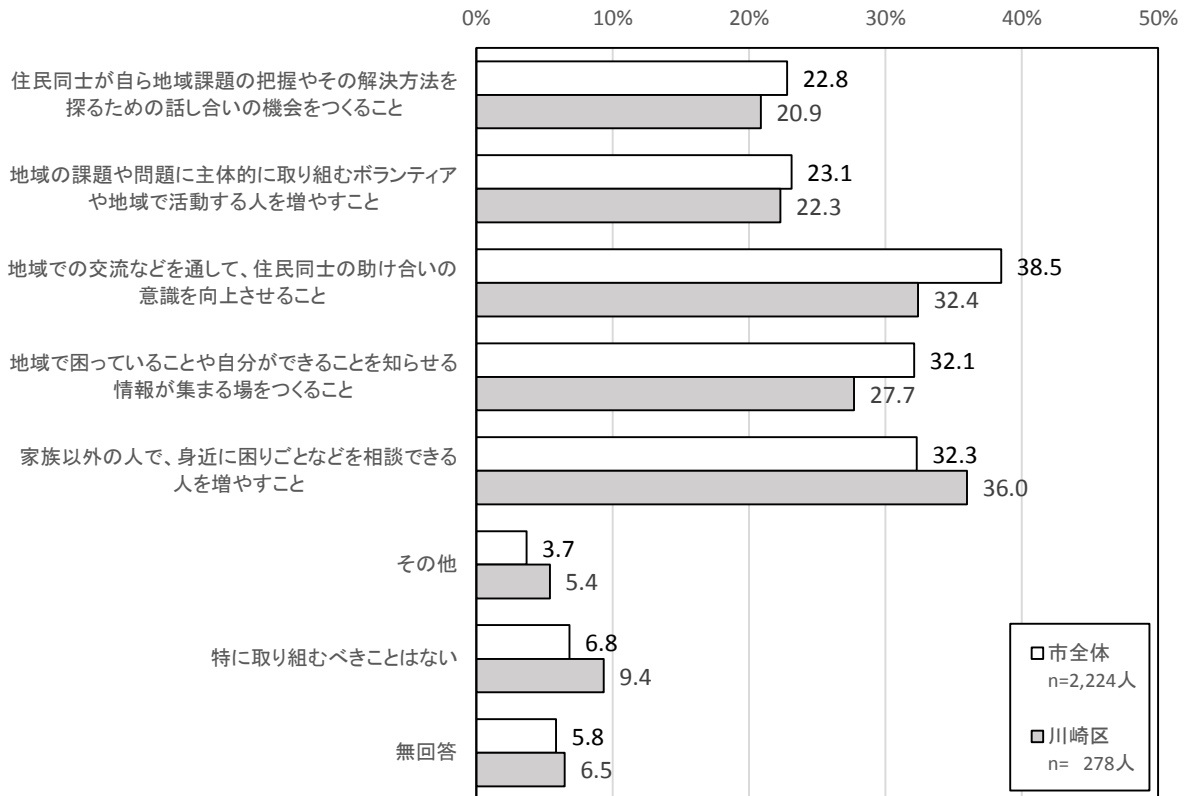


7. 今後の地域福祉の推進について

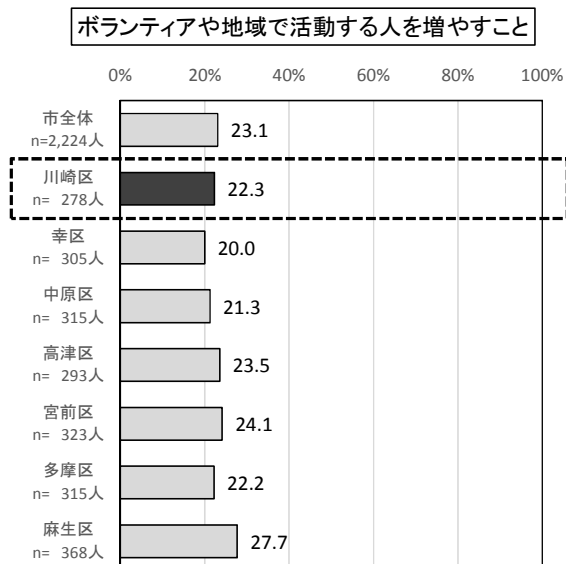
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」の割合が36.0%で最も高く、次いで「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」（32.4%）、「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（27.7%）となっている。

市内6区と比較すると、「地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、22.3%で4番目に高い。



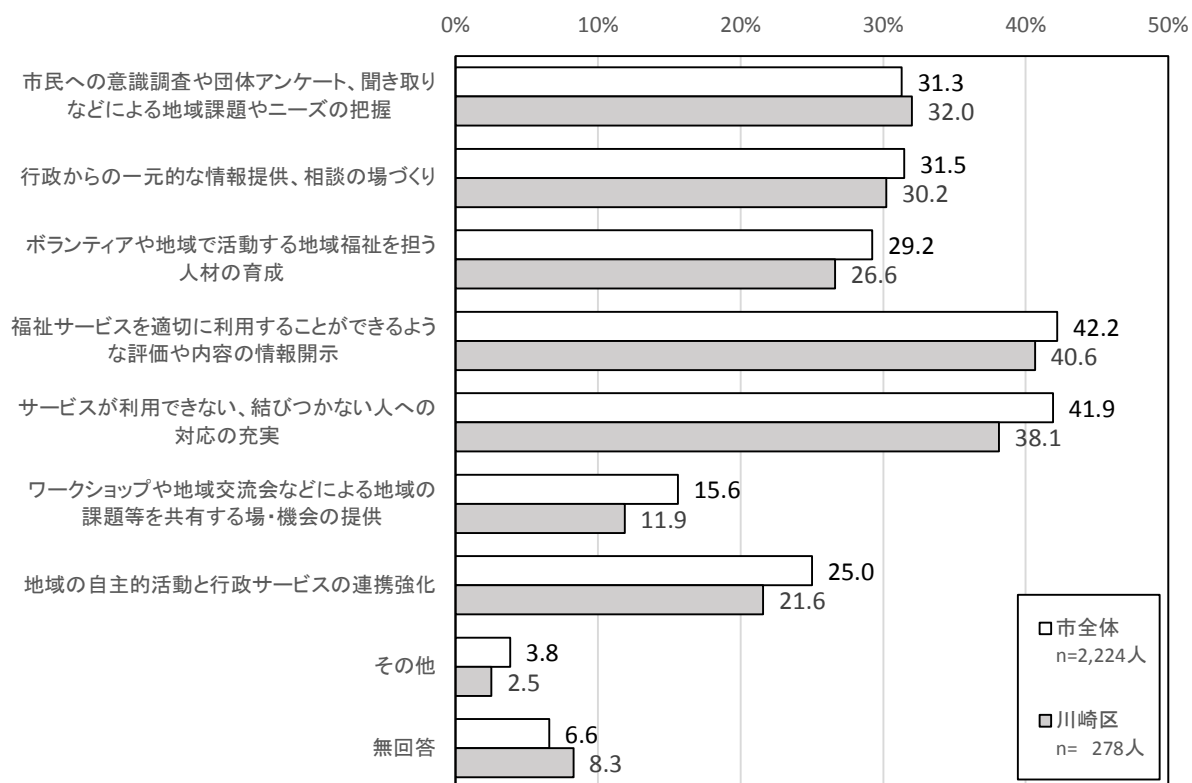
【参考】



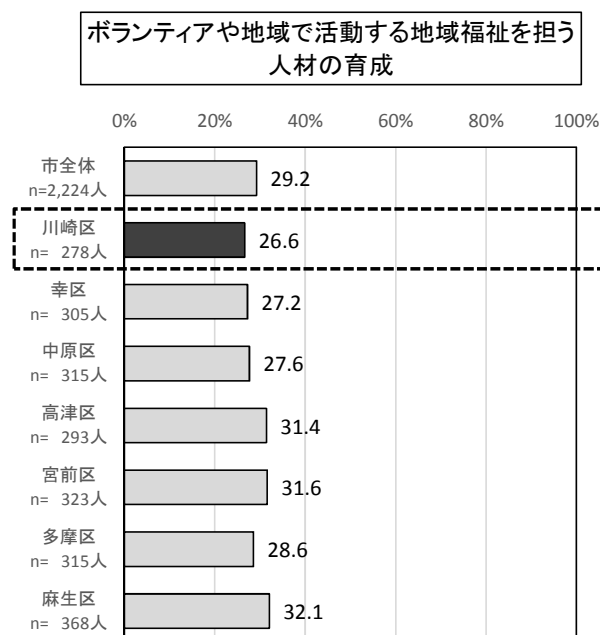
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

川崎区では、「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」の割合が 40.6%で最も高く、次いで「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」（38.1%）、「市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握」（32.0%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」については 26.6%で最も低い。



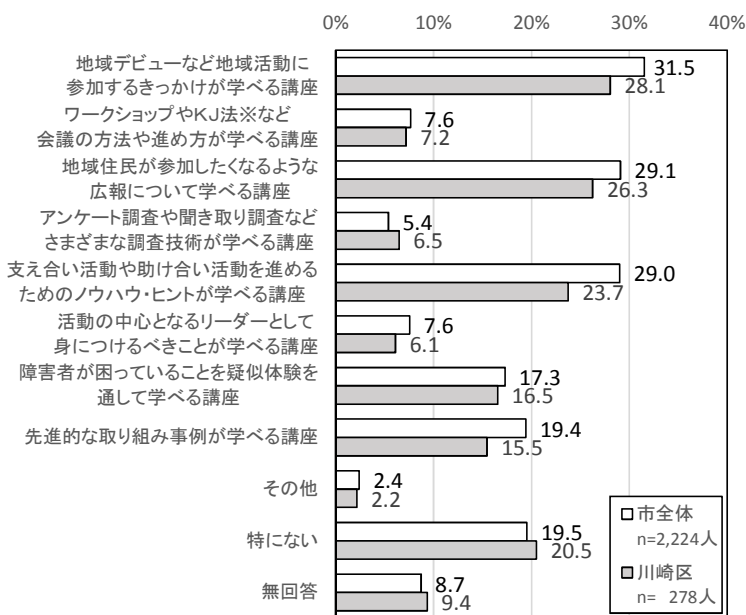
【参考】



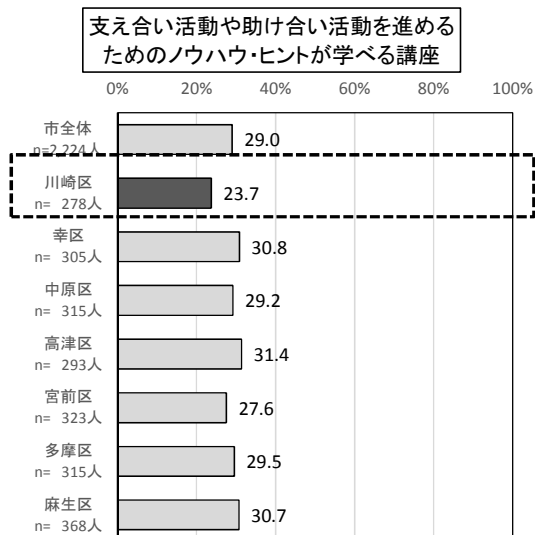
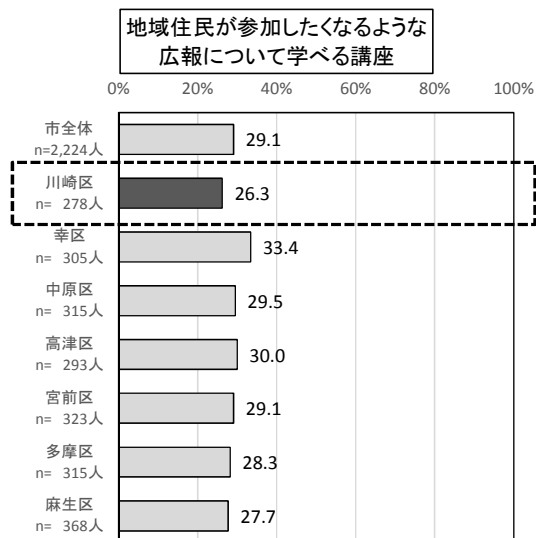
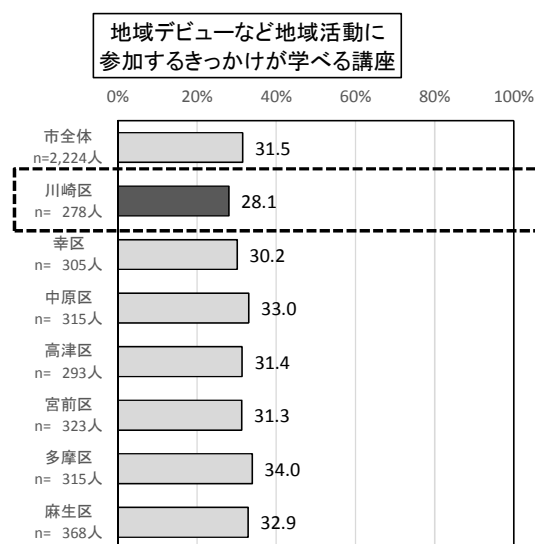
問 44 今後、地域福祉を促進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてまでに○）

川崎区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が28.1%で市全体（31.5%）を下回っている。

市内6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」（28.1%）、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」（26.3%）、「支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」（23.7%）は最も低くなっている。



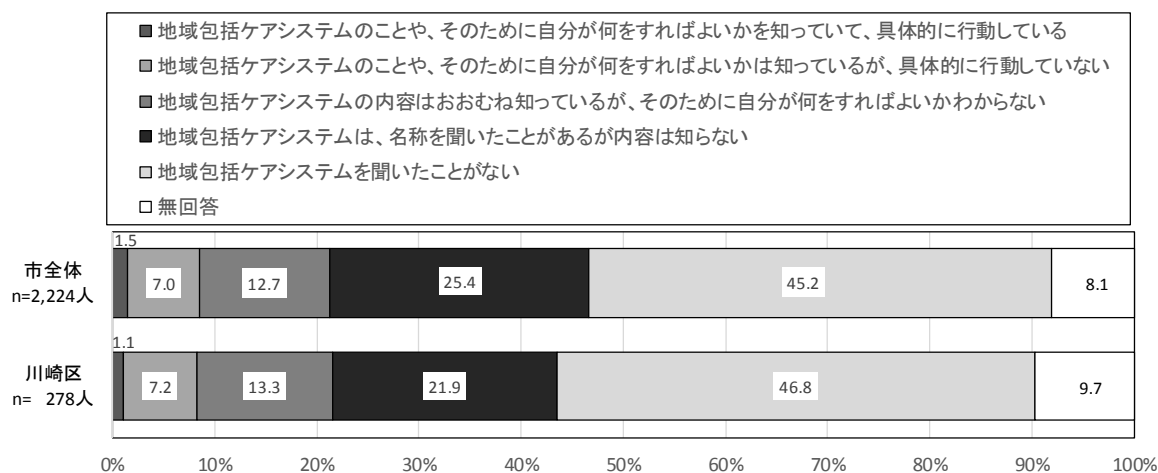
【参考】



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

(1つに○)

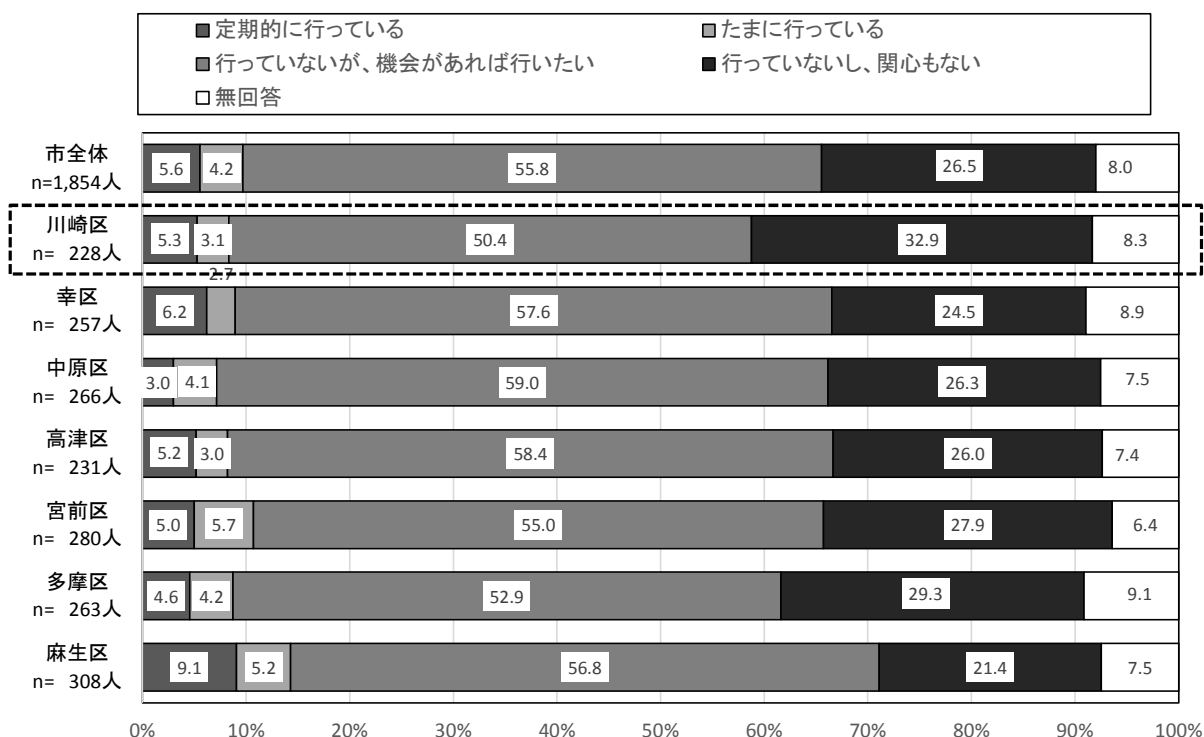
川崎区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が46.8%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(21.9%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(13.3%)となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあります。このような行動を行っていますか。(1つに○)

川崎区では、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計が 8.4%で市全体(9.8%)を下回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計は3番目に低くなっている。また、「行っていないし、関心もない」の割合は 32.9%で最も高い。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	15
2. 地域防犯・防災に関する問題	14
3. 高齢者に関する問題	7
4. 地域のつながりに関する問題	19
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	9
6. 障害児・者に関する問題	2
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	1
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	3
9. 健康づくりに関する問題	2
10. その他	7

1. 子どもに関する問題（15件）

	内容
1	子どもが公園であまり遊んでいない。
2	近隣に保育園が少ない。
3	日本人のすべてに道徳が不足していると考えます。次の世代を担う小学生の方に道徳教育が必要だと思えます。是非とも考えて下さい。
4	子どもたちがボール遊び出来る場等がない（他1件）。
5	公園にクギやタバコなどがおちていて小さい子の目につく。広場では自転車などおいて場所取りして、かたいボールで遊ぶ中高生がいて、小さい子が遊べる場所がない。
6	公園はあるが、不審者が多く、子どもたちだけで遊ぶには不安を感じる。
7	子どもが外で遊ばない。自転車など盗難に遭う。
8	保育園不足。
9	高齢者や子ども達が安心して遊べる場所（室内・無料）が少ない（有料の所が多い）（他2件）。
10	子どもたちに注意、善悪の教育が欲しい（学校教育または学童にて教育）。
11	子育て支援が不十分と感じている。高齢者福祉も大事ですけど子どもを育てていく環境、子どもをつくれる環境の整備が特に必要だと感じています。田島地区の保育園の環境が整っているととても感じられない！！
12	子どものいない地域に町の発展はない。
13	近くの公園で遊ばせたいが、タバコを吸っている人や、激しく遊ぶ小学生が多く、幼い子どもを公園に連れて行けない。
14	特に集団での行動は目にあまる。道路を歩くにしてもいっばいに広がって歩き車が来ても知らん顔、警笛を鳴らすとののしる。
15	仕方ないのかも知れませんが、ゲームセンター等子どもがお金を使う場所が多過ぎると思う。しかも高額と聞きます。条例などで制限できないかな。一回の使用金額とか。昔もありましたが今は子どもがお金を使いすぎる。

2. 地域防犯・防災に関する問題（14件）

	内容
1	台風 15 号、19 号の影響で、断水、エレベーターの停止となり初めての事で防災（備蓄）、近所づきあいなどの必要性・大切さを痛感しました。
2	災害の際に同じマンション内で情報共有できる人が少ないことが不安。
3	色々な事件も起こるので将来小学校への登校や帰宅を子ども 1 人でさせるのが心配。
4	地震や水害などへの対応。
5	災害時の避難場所、備蓄等。
6	ホームレス、語学学校の留学生が周辺に多数いる。
7	不審者や酔っ払いが多いと感じる。自転車やマナーが悪い。
8	エリアの治安。
9	川の氾濫の時等に備えた防災訓練があるといいと思っています。
10	高齢社会の為、犯罪が多い。
11	道が暗い。街灯の数。
12	登下校時、危険な場所での見守りをお願いしたい。
13	周囲環境として歩道のバリアフリー整備、自転車の整備、夜間における防犯の取組が必要。（特に中高校生の犯罪に気を付けて欲しい）。
14	最近自転車事故が増えているので、歩行者と自転車運転の指導をしていただきたい。高齢者で自転車を杖がわりにして歩いている人がいる。

3. 高齢者に関する問題（7件）

	内容
1	高齢者のみの家族、特に 1 人高齢者についてのケア、生活費、健康の問題、老後の安心感。
2	独居になる不安。
3	一人暮らしのお年寄りが増えているので地域の交流が必要だと思う。
4	年金だけでは生活出来ないと思う。現在は仕事をさせて頂いているが来年 4 月からは無職になる。働く意欲のある高齢者の就職窓口が出来て欲しい。
5	介護による破綻、費用、受け入れ体制、単身者。一人の介護によって家族が破綻（要介護・痴ほう）。自殺ではなく、死の選択が必要になってくる。臓器移植カードの様な。
6	高齢者が非常に多いと感じているが、その中でも経済的格差があり、高齢者福祉が公平にまた税制なども含め、老後は皆が同様に幸福を享受できるような施策を望みます。
7	築 25 年程度たち居住者が高齢化してきている。

4. 地域のつながりに関する問題（19件）

	内容
1	川崎市内の人口増加！！急に人が増えたことによる通勤時のストレス！！により近所づきあいする心の余裕がない！！
2	アパートやマンションが多く町内会への未加入や近所住人同士でのつながりが無い。
3	同じ集合住宅で生活する者同士でもあいさつすら交わされない（他 3 件）。
4	必ずしも交流しなければならないという概念はなく必要があれば応じるという具合です。
5	町内会等に参加する人が減少しているため、情報不足。
6	高齢者の一人暮らしが増えてきている、大変気になる。自分が住んでいる地域に関心を持たない人が多く悩みどころ。

	内容
7	町内会の理事会等、あまりやりたくはないですし、他の方もやりたくないだろうなど感じる事。
8	住宅地だが、車の交通量が多い為事故などが不安。以前、近所で空き巣があり、人のつながりが大切だと思った。
9	人間関係が問題だと思います。企画がよくても関心が薄い。
10	人種のるつぼ化していて誰が近所にいるのかも分からない。
11	年齢差があると話が合わない。
12	マンションと地域が分離している（他1件）。
13	近所の人々とのつながりが無い。核家族化。色々な事件があるので知らない人と子どもを接触させづらい。あいさつすら考えてしまう。
14	地域によってはその土地柄が影響する。例えば古くから住んでいる人が密集している地域に他所から越してきた場合、受け入れがたい態度を取られたりすることがある。そのような人たちに囲まれて生活すると何も話すことが出来ない為孤立を生む原因になる。
15	3年前に田島支所管内に転入したが、管内は高齢化が進み、一人暮らしの方も多し。なるべく交流を図りたいがなかなか難しい。町内会は行事も少なく交流がない。
16	同じ近所でもあいさつしてもしない家もある。
17	隣近所やアパートの住民の名前がなく、番号だけの住宅があり、人間関係が希薄になっている。来年の国勢調査の精度が心配です。
18	町内会役員の方々は頑張っているが参加する人がいつもだいたい決まっている。
19	町内会に未加入の世帯が意外と多い。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（9件）

	内容
1	個人情報の保護はある程度必要なことだが、必要以上に過敏になりすぎているところがあるかと思えば、詐欺などの犯罪は減少する訳ではない。必要な情報は共有し地域のつながりに役立てれば良いと思う。
2	隣人が入院してもその後どうなったのか、自宅へしばらく帰ってこなくてもどこへ行ったのか分からない。住居がそのまま空になっていることが不安である。
3	「市政だより」以外の情報が得られない。防災広報は（無線）声が割れて、殆ど聞き取れない。
4	10月の台風の避難所の件です。近所の病院が受け入れてくれた事、後から知りました。このような緊急な情報が伝わらない。足の悪い人が雨の中、中学校まで行った。
5	連携方法について回覧板か掲示板等でお知らせしても見る習慣のない方は見ないので、なかなか地域全体への周知は難しい状況と感じています。
6	市や区が実施している行政サービスが十分に周知されていない。
7	マンションでは子どものいる家庭、居ない家庭などでつながりが異なってきたり温度差も違う。また情報も異なっているため知らない事が多いと思われる。積極的に得ない限り得られない。
8	市、区の公報等が届かないので市（区）の状況が分からない。町内会や自治会に入らないと届かないものなのか、不明である。
9	よく道ばたにある掲示板で近所のイベントについてのチラシが貼ってあるのを見かけるが、もしその場所で見ることがなければイベントについて知る機会がなく、見逃している行事もあるのではないかと感じた事がありました。（地域の運動会、盆踊りなど）自治会の区域外のマンションだからというのものもあるのかもしれませんが、もっと知る機会があればいいなと思いました。

6. 障害児・者に関する問題（2件）

	内容
1	障害者に対してのまわりの人の優しさが感じられない。
2	たとえばバスの中など目に見えない障害者が居ても席を譲らない人が多い（ヘルプマークつけても）わたしは耳が聞こえないので人工内耳の電池が切れた時に道路で歩いていると、夜でも自転車がライトをつけていなかったり、いきなりそばで走って去るので危ない。母がリハビリしていたとき、自転車が通ってひかれそうになった。

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（1件）

	内容
1	町会役員のみ手が少ない中、町会で町会の未加入者にも広報誌などの配布をしなくてはならない。特にマンションなどの集合住宅居住者の町会への加入を積極的に進めるべきではないか。

8. 家庭不安や心配ごとをだれにも相談できない人がいるという問題（3件）

	内容
1	気軽に相談できない。どこに行けばいいのかわからない。
2	介護などで何でも相談できる所を増やして欲しい。
3	臨床心理士の人を増やして欲しい（各所相談場所に）。

9. 健康づくりに関する問題（2件）

	内容
1	生活習慣について、主に飲酒のマナーには十分に気をつけるべきだと思う。
2	過去に頭痛で救急車で運ばれたことがあります。1人暮らしなので、自宅で倒れた場合など心配です。

10. その他（7件）

	内容
1	町全体が汚い
2	子育てする環境ではない。古くからのスナックや風俗店の電飾など美観がない。JR川崎駅の大きなディスプレイも光量が強くまぶしい上に音量が大きすぎて品がない。
3	大井町、大森に比べて、スーパーの物価が高いです。（ただ家賃は安いです）。
4	住宅地だが、車の交通量が多い為事故などが不安。以前、近所で空き巣があり、人のつながりが大切だと思った。
5	私は今パーキンソンであり82歳である。主人、子どもも亡くなり歩くことが少し困難になりつつある。身寄りがなく1人生活である。先の事を考え不安定状態にいる。
6	外国からの居住者はゴミ出しのルールを知らないのか。指導・注意しても聞かない。
7	アルバイトでレジを行う際、酒、たばこの年齢確認が非常にストレスです。全員（酒、タバコを買うお客様）が年齢確認する条例が出来ればストレスが解消される。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	7
2. 地域交流のため	3
3. 社会貢献	4
4. 健康維持	3
5. 時間に余裕があるから	0
6. 身近で関心・興味がある	4
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	4
8. 街の美化のため	0
9. 時間に余裕がなく、できない	4
10. 病気・高齢だからできない	4
11. 参加する気はあるが方法がわからない	1
12. その他	3

1. 自分自身や子どものため（7件）

	内容
1	我が子の為！！
2	子ども食堂など。7人に1人の子どもが貧困で食事をまともに食べられない子どもが多いから。食は健康の基本と思うので。
3	現代の子どもたちにとって必要だと思うから。
4	子どもと一緒に楽しめそうだから。
5	自分自身の為になりそうだから。
6	面白そうだから。
7	子どもがこれから生まれると思われるので。

2. 地域交流のため（3件）

	内容
1	外国語ができて国際交流に関心があるが現状は中原区まで行かないとチャンスがない。川崎区は外国人が多いので外国人の生活サポートや話し相手などになりたい。
2	人付き合いが深まりそう。
3	介護をした経験から、今後の自分なるべくまわりに迷惑をかけずに生活する情報を得られたらと思う。また、現状も知りたい。

3. 社会貢献（4件）

	内容
1	応急手当普及員の為救命講習を実施したい。
2	社会に少しでも貢献したいし社会の人たちとつながってみたい。
3	健康で少しでも人の役に立ちたい。
4	地域社会への貢献。

4. 健康維持（3件）

	内容
1	地域の高齢化に伴い、自分自身で体や頭を使うことが必要。認知症の防止にもつながる。
2	高齢者が自立した生活を少しでも長く維持できるように。
3	健康が一番大切であると思っています。

5. 時間に余裕があるから（0件）

6. 身近で関心・興味がある（4件）

	内容
1	関心がある。
2	楽しいことが好き。
3	人の役に立ちたいから。特技がいかせたら。楽しそう。
4	やはり自分の興味のある事、楽しい行事には参加したいと思います。

7. 仕事をしていた或いは資格があるから（4件）

	内容
1	仕事に関連しているから。
2	幼稚園教諭・保育士の免許を活かしてできる。
3	医療にたずさわっているから。
4	今、フラワー関係の仕事をしているので。

8. 街の美化のため（0件）

9. 時間に余裕がなく、できない（4件）

	内容
1	現在子育て中であるため。
2	自分は常勤でできていないが妻が活動している。定年時に考えたい。
3	条件さえそろえば出来ると思います。実際は随時制約が伴う。
4	平日日中行事は仕事の都合であまり参加ができません。土日も子どもの習い事・塾があるため行事自体に魅力を感じるものであれば参加したいと思います。

10. 病気・高齢だからできない（4件）

	内容
1	様々な病気を抱えているため、困難です。
2	今は自分が病気の為、自分のことで精一杯、健康であれば皆さんと楽しい事、喜ばしい事、いろいろしたい。

	内容
3	身体的に弱っているから。
4	高齢で何も出来ません。

11. 参加する気はあるが方法がわからない（1件）

	内容
1	興味はあるが、身近にない。内容が解らない。献血の様に毎日やっているのか、空いた時間に出来るのか。日常の中にないと参加に至らない。

12. その他（3件）

	内容
1	英国代表サポーターボランティアをやりたいがすでにしめ切られていた。
2	不可抗力の事象だから。
3	ボケ防止には趣味がいちばん

(3) 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

『地域包括ケアシステム』の取組等に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1.取組の周知について	2
2.市への意見・要望について	6
3.地域住民とのつながりについて	0
4.今自分がやれることがない	1
5.取組への期待について	2
6.医療について	0
7.その他	9

1. 取組の周知について（2件）

	年代	内容
1	45～49歳	地域包括ケアシステムがそうしたものが理解できていない（知らない）ので意見の申しようがありません。アウトプットをもっとして欲しいです。
2	60～64歳	知らない人が多いと思うので、情報が知りたい。

2. 市への意見・要望について（6件）

	年代	内容
1	25～29歳	分かり易くお願いします。
2	35～39歳	取り扱う情報が、安全で悪用される恐れがないならば提供できる。
3	60～64歳	とても良い事であると思いますが、高齢者が参加するのではなく若い人達に参加して欲しいです。我々はもう思うように活動できない事が多いので、助け合いたいとは思いますが自分のことで精一杯です。
4	75歳以上	むずかしいことはよく分からないけど暮らしやすくなるように。
5	45～49歳	現在、介護の学校に通学して資格を取るために勉強しています。また、仕事でも多少福祉の仕事にたずさわっている。いずれ地域包括ケアのお仕事をしてみたいと思っても、実際、そこにいきつくまで、どのくらいの実践を積んだら良いのか、どのくらいの年数がかかるのか等、ハードルが高いように感じる。経験も大切なのはもちろんですが今、興味があってやりたい仕事に近道があるとよいなと考えています。それによって福祉にたずさわる人が増えるのではないかと思う。
6	55～59歳	自分は関西出身で、市内で働いているが、定年後の不安として、何かあって親族等に連絡取れない状況になった時は非常に不安である。医療機関と連携して対応したり、近所のボランティアに頼るしかないので、個人情報をどこまで知らせるかガイドラインと保護するラインを明確にして、安心して住める川崎にして欲しいと思う。

3. 地域住民とのつながりについて（0件）

4. 今自分がやれることがない（1件）

	年代	内容
1	30～34歳	自分は参加しないと思う。

5. 取組への期待について（2件）

	年代	内容
1	70～74歳	地域に包括ケアシステム自体がある事を知らない住民が多いと思う。全ての事で地域に関わりを持ってくれる人が増えればと思う、課題ですね。
2	75歳以上	取組、活動、システムの構築は良い事と思いますがそれに参加、活動できる人、またできない人それぞれ個人の事情があり、活動する人とならない人などの間に出る温度差などをどう対処するかが、重要だと考えます。誰でも、年齢と時間経済的余裕があれば参加し、活動したいと思う人は多いと思いますが。

6. 医療について（0件）

7. その他（9件）

	年代	内容
1	35～39歳	取り扱う情報が安全で悪用されないなら提供できる。
2	60～64歳	我町会もボランティア活動を、して下さる方を捜していますが、皆様忙しく、今まで60才退職→町会ボランティアという図式が変わってきました。65才→70才までお仕事をしておられるのでボランティアが集まりません。やり始めれば楽しいと思いますが。キッカケが、難しいですネ！！
3	60～64歳	横浜市にある地区センターのシステム作り。高齢者の支援や訓練、いこいの場を提供して欲しい。分かり易い表現で生き生きのフレーズに恥じない環境を整備して下さい。
4	75歳以上	体操など参加させて頂いております。82歳ですが、身体はまだ少し動きます。1人生活ですので、行く先が心配です。私のような年寄りが多いので大変だと思います。
5	55～59歳	人が足りていない様な気がする。
6	25～29歳	そんなことより、育児の支援に力を入れて欲しい。
7	40～44歳	公民館・町内会館の活用。高齢者の学校の様な、集い場。高齢者の雇用。氷河期世代の収入増や婚姻。
8	75歳以上	私は家族と自営しています。従ってその家族を通して地域の人たちと交流し沢山の人間（お客様）と接しており、なかなか時間的余裕がありません。
9	75歳以上	自分の健康管理には注意しているが障害があるため地域活動に関われない。難しいです。

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取り組みの周知について	1
2. 市への意見	6
3. 地域住民とのつながりについて	0
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	1
5. 健康について	0
6. 取り組みの提案について	4
7. 取り組みへの期待について	2
8. サービスや手続きについて	0
9. その他	9

1. 取組の周知について（1件）

	年代	内容
1	60～64歳	知らない人が多いと思うので、情報が知りたい。

2. 市への意見（6件）

	年代	内容
1	25～29歳	分かり易くお願いします。
2	35～39歳	情報を安全に取り扱って欲しい。
3	60～64歳	とても良い事であると思います。
4	75歳以上	難しいことはよく分からないけど暮らしやすくなるように。
5	45～49歳	現在、介護の学校に通学して資格を取るために勉強している。また、仕事でも多少福祉の仕事に携わっている。いずれ地域包括ケアのお仕事をしてみたいと思っても、実際、そこにいきつくまで、どのくらいの実践を積んだら良いのか、どのくらいの年数がかかるのか等、ハードルが高いように感じる（他2件）。
6	55～59歳	自分は関西出身で定年前の現在、市内で働いているが定年後の不安として何かあった時は、親族等に連絡が取れない状況になった時は非常に不安である。勤めをしている時は会社から連絡が行くと思うが定年後の一人暮らしの時は不安がある。医療機関と連携して対応したり近所のボランティアに頼るしかないのだろうかと不安もあるので個人情報をごとまで知らせるかガイドラインと保護するラインを明確にして安心して住める川崎にして欲しいと思う。

3. 地域住民とのつながりについて（0件）

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（1件）

	年代	内容
1	60～64歳	とても良い事であると思いますが、高齢者が参加するのではなく若い人達に参加して欲しいです（他2件）。

5. 健康について（0件）

6. 取組の提案について（4件）

	年代	内容
1	35～39歳	この名称では内容（活動）が分かりにくいです。地域全体フォローシステムとか分かり易い単語をつかうと親しみやすいかもしれません。
2	55～59歳	地域活動に前向きな人について、誰がどんなことができるのか得意分野は何なのかが情報として登録されていてその力を借りたい時にマッチングしてくれるようなしくみが欲しい。たとえば外国語や自動車の運転、高所での作業や電気製品の設置などの特殊技能。
3	20～24歳	そのシステムに介護職が入っているのであれば給料を上げるべき。ボランティアを募集するものではない。募集するのであればバイトにして欲しい。
4	45～49歳	経験も大切なのはもちろんですが今、興味があつてやりたい仕事に近道があるとよいなと考えています。それによって福祉に携わる人が増えるのでは（他2件）。

7. 取組への期待について（2件）

	年代	内容
1	20～24歳	地域に包括ケアシステム自体がある事を知らない住民が多いと思う。全ての事で地域に関わりを持ってくれる人が増えればと思う。課題ですね。
2	75歳以上	取組、活動、システムの構築は良い事と思いますがそれに参加、活動できる人、またできない人それぞれ個人の事情があり、活動する人とならない人などの間に出る温度差などをどう対処するかが、重要だと考えます。誰でも、年齢と時間経済的余裕があれば参加し、活動したいと思う人は多いと思います。

8. サービスや手続きについて（0件）

9. その他（9件）

	年代	内容
1	34～39歳	取り扱う情報が悪用されないならば、提供できる。（他2件）
2	60～64歳	我町会もボランティア活動を、して下さる方を捜していますが、皆様忙しく、今まで60才退職→町会ボランティアという図式が変わってきました。65才→70才までお仕事をしておられるのでボランティアが集まりません。やり始めれば楽しいと思いますが、キッカケが、難しいです。
3	60～64歳	横浜市にある地区センターのシステム作り。高齢者の支援や訓練、いこいの場を提供して欲しい。分かり易い表現で生き生きのフレーズに恥じない環境を整備して下さい。
4	75歳以上	体操など参加させて頂いております。82歳ですが、身体はまだ少し動きます。1人生活ですので、行く先が心配です。私のような年寄りが多いので大変だと思います。

	年代	内容
5	55～59 歳	人が足りていない様な気がする。
6	25～29 歳	そんなことより、育児の支援に力を入れて欲しい。
7	40～44 歳	公民館・町内会館の活用。高齢者の学校の様な、集い場。高齢者の雇用。氷河期世代の収入増や婚姻。
8	75 歳以上	私は家族と自営しています。従ってその家族を通して地域の人たちと交流し沢山の人達（お客様）と接しており、なかなか時間的余裕がありません。
9	75 歳以上	自分の健康管理には注意しているが障害があるため地域活動に関われな い。難しいです。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	()
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他()

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学生
2. 定年退職者	4. その他()

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問11 あなたは現在、健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響がありますか。(1つに○)

- | |
|-------------------|
| 1. ある (→問11-1へ進む) |
| 2. ない |

《問11-1は、問11で「1. ある」とお答えの方におたずねします》

問11-1 それはどのようなことに影響がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 日常生活動作(起床、衣服着脱、食事、入浴など)に影響がある |
| 2. 外出(時間や作業量などが制限される)に影響がある |
| 3. 仕事、家事(時間や作業量が制限される)に影響がある |
| 4. 運動(スポーツを含む)に影響がある |
| 5. その他() |

【「川崎市地域福祉計画」についておたずねします】

川崎市では、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築をめざして、平成30年3月に「市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせる ふるさとづくり」を基本理念とする『第5期川崎市地域福祉計画』及び7つの区で『区地域福祉計画』を策定しました。

地域福祉計画は、それぞれの生活の拠点である地域において、共に生きるまちづくりの精神を発揮して、市民と行政がともに地域社会の生活課題の解決に取り組むことにより、誰もが安心していきいきと健やかに暮らせるような地域社会をつくることを目的としています。

また、“地域福祉”とは、こうした地域社会をつくりあげていくための市民や行政の取り組みと言えます。

問12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 市の計画、区の計画の両方を知っている |
| 2. 区の計画は知らないが、市の計画は知っている |
| 3. 市の計画は知らないが、区の計画は知っている |
| 4. 市の計画も区の計画も知らない (→問13へ進む) |

《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより | 6. 交流会・ワークショップ |
| 2. 市や区のホームページ | 7. シンポジウム |
| 3. チラシ・パンフレット | 8. 講演・講習会 |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. 口コミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合 | 10. その他() |

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 両隣 |
| 2. 向こう三軒両隣程度 |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度 |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度 |
| 6. その他() |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度 |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度 | 6. その他() |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない |
| 7. その他() |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している | (→ 問17へ進む) |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない |
| 2. きっかけがない |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい |
| 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない |
| 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない |
| 11. その他 () |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。
(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度 | 4. 中学校区程度 | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他 |
| 3. 小学校区程度 | 6. 川崎市内程度 | () |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)
2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)
3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)
4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)
5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)
6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)
7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題
9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題
10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題
11. その他()
12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む)

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない
2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない
3. 経済的に生活できるか不安である
4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない
5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他()

問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 身近でいつでも相談できるところがあること |
| 2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること |
| 3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること |
| 4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること |
| 5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること |
| 6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること |
| 7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること |
| 8. その他 () |
| 9. 特に何も必要だとは思わない |

問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族 | 8. 地域包括支援センター等専門相談機関 |
| 2. 友人・知人 | 9. 民生委員児童委員 |
| 3. 離れて暮らしている家族 | 10. 社会福祉協議会 |
| 4. 区役所地域みまもり支援センターの職員 | 11. 民間の相談機関(電話相談を含む) |
| 5. かかりつけの医療機関 | 12. インターネット |
| 6. 近所の人 | 13. その他 () |
| 7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員 | 14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない |
| | 15. 相談する人がいない |

問22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. いる (→ 問22-1へ進む) | 2. いない (→ 問23へ進む) |
|--------------------|-------------------|

《問22-1、問22-2は、問22で「1. いる」とお答えの方におたずねします》

問22-1 何人くらいいますか。

人

問22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 親 族 | 8. 区役所・市役所 |
| 2. 友人・知人 | 9. 地域の医療機関 |
| 3. 近所の人 | 10. ケアマネジャーやホームヘルパー等 |
| 4. 民生委員児童委員 | 11. その他() |
| 5. 社会福祉協議会 | 12. 誰もいない |
| 6. 地域の活動団体 | 13. 頼みたくない |
| 7. NPO等の民間団体 | |

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ()

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ()

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題と
なっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはま
るものすべてに○)

1. 経済的に困窮している（お金がない）こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他（）
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを
5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他（）
14. 特にない
15. わからない

【地域活動やボランティア活動についておたずねします】

問31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動
2. 高齢者に関する活動
3. 障害児・者に関する活動
4. 子育てに関する活動
5. 医療に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動
7. 社会福祉協議会に関する活動
8. お祭りやイベントに関する活動
9. 地域安全に関する活動
10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動
11. 文化・芸術に関する活動
12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
13. その他()
14. 今は参加していないが条件が整えば参加したい (→問31-2～問31-5へ進む)
15. 参加したことがない (→問31-6～問31-7へ進む)

[問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方は問31-1に、
問31で「14」とお答えの方は問31-2～問31-5に、
問31で「15」とお答えの方は問31-6にそれぞれ進んでください]

《問31-1は、問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問31-1 活動に参加した動機やきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 人の役に立ちたいから
2. 自分たちのために必要な活動だから
3. 家族・友人・知人から誘われたから
4. 学校の授業などで機会があったから
5. 困っている人や団体から頼まれたから
6. 余暇を有効に活用したいから
7. 趣味や特技を活かしたいから
8. 楽しそうだから
9. つきあいのため、やむを得ず
10. その他()
11. なんとなく

《問31-2～問30-5は、問31で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動	8. お祭りやイベントに関する活動
2. 高齢者に関する活動	9. 地域安全に関する活動
3. 障害児・者に関する活動	10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動
4. 子育てに関する活動	11. 文化・芸術に関する活動
5. 医療に関する活動	12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動	13. その他()
7. 社会福祉協議会に関する活動	14. 具体的にはわからない

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

1. 週3回以上	3. 月2～3回	5. 月1回未満
2. 週1～2回	4. 月1回	

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

1. 平日日中(10時～17時)2時間以内	5. 休日日中2時間以内
2. 平日日中4時間以内	6. 休日日中4時間以内
3. 平日日中6時間以内	7. 休日日中6時間以内
4. 平日夜間(17時～20時)	8. 休日夜間(17時～20時)

《問31-6～問31-7は、問31で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や家事が忙しく時間がない	8. 一度はじめると拘束されてしまう
2. きっかけがつかめない	9. 行政や事業者が行えばよい
3. 身近に活動グループや仲間がない(知らない)	10. 人と接するのが苦手
4. 健康に自信がない	11. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られない	12. その他()
6. 興味を持てる活動がない	13. 特に理由はない
7. 育児や介護を必要とする家族がいる	

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他()
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

【保健・福祉に関することについておたずねします】

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている | |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている | |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない | } (→問34へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない | |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進 |
| 2. 子育て支援の充実 | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進 | 8. 福祉関係団体の活動支援 |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催 | 9. その他() |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報 | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ | 9. 友人・知人 |
| 3. チラシ・パンフレット | 10. 学校 |
| 4. 新聞・テレビ | 11. 近隣 |
| 5. 民生委員児童委員 | 12. 団体等の広報紙等 |
| 6. 社会福祉協議会 | 13. その他() |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所) | |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2~3日程度 | 4. 月に数日程度 | |

【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ()
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ()
14. 特にない

問 38 東日本大震災から8年経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ()
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他 () |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特にない |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 現住所、電話番号	11. 電話や電子メールなどの通信履歴
2. 会社、学校等の連絡先	12. 病歴、身体の障害など
3. 緊急時の親族等の連絡先	13. かかりつけ医、服薬、障害の程度
4. メールアドレス	14. 介護保険の要介護度
5. 出生地	15. 福祉サービスの利用状況
6. 生年月日、年齢	16. 健康保険証の記号番号
7. 血液型	17. その他()
8. 顔写真などの画像	18. 特になし
9. 家族構成	19. わからない
10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無	

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること
2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと
3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること
4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること
5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと
6. その他()
7. 特に取り組むべきことはない

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握
2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり
3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成
4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示
5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実
6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供
7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化
8. その他()

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座 |
| 2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座 |
| 3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座 |
| 4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座 |
| 5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座 |
| 6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座 |
| 7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座 |
| 8. 先進的な取り組み事例が学べる講座 |
| 9. その他 () |
| 10. 特になし |

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

- | |
|---|
| 1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している |
| 2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない |
| 3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない |
| 4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない |
| 5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない |

} (→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

《問45-1は、問45で「3」～「5」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問45-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。

このような行動を行っていますか。行っている場合、かつこ内にあなたが行っている取組等についてお書きください。

1. 定期的に行っている ()
2. たまに行っている ()
3. 行っていないが、機会があれば行いたい
4. 行っていないし、関心もない

問46 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問47 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

12月20日（金）までにお近くのポストに投函してください。

第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（川崎区版）

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
